

平成8年度版

# こころの健康センター所報

三重県こころの健康センター  
(精神保健福祉センター)

## はじめに

平成8年度の所報をお届けします。

我々のこころの健康センターも、出先機関として独立し、現在の久居庁舎に移って9年目に入りました。

思い出すのは、9年前の引っ越し当日、障害を持ったK君が駆けつけてくれて、我が事のように祝ってくれたことです。職員4人とK君だけの、まことにささやかな、しかし嬉しい乾杯でした。

そのK君もそれから結婚して家庭を持ち、定職に就いて今日に到っています。9年という歳月に鍛えられて、ようやくK君にも、いくばくかの余裕ができたようです。

我々のセンターも、多くの方々の心のこもったご支援を得て、今日まで活動を継続でき、ささやかながらも歴史を持てるようになりました。日頃雑事にまぎれて無礼を重ねておりますが、この場をかりて心より厚く御礼申し上げます。

さて平成7年のオウム真理教事件から、最近の神戸男児殺害事件に到る流れを見ますと、地域社会のメンタルヘルスに地殻変動が起っているかのようです。身近かなところでは、児童虐待や家庭内暴力、薬物依存等が問題になっています。

精神障害者の地域でのサポートのみならず、ライフサイクルの各年代、生活の各場での心の危機に総合的に対応できる、心のケアの体制が必要ではないでしょうか。

平成9年度は、「こころの機動班」として県内のさまざまな精神保健福祉ニーズに、チームで出向いてみることにしました。我々に寄せられる要望にできる限りこたえてみて、センターの活動にフィードバックして行きたいと思っています。

今後ともご支援のほどを。

平成9年夏

三重県こころの健康センター

所長 原田 雅典

# 目 次

はじめに

I. こころの健康センター概要	1
1. 沿革	1
2. 業務	1
3. 施設の概要	2
4. 組織及び職員	3
II. こころの健康センターの活動	5
1. 技術指導援助	5
2. 教育研修	9
3. 広報啓発	15
4. 協力組織の育成	21
5. 心の健康づくり推進	27
6. 精神保健相談	39
7. 精神障害者福祉推進	47
III. こころの健康センター図書目録	51

# I. こころの健康センター概要

1. 沿 革
2. 業 務
3. 施 設 の 概 要
4. 組 織 及 び 職 員

## 1. 沿革

### ○ 昭和61年5月

三重県こころの健康センター（精神保健センター）は精神保健法第7条の規定に基づき、地域精神保健活動の技術的中枢機関として、三重県津庁舎津保健所棟1階（津市桜橋3丁目446-34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。

初代所長 原田雅典氏就任。

精神科医師1名、看護婦1名、保健婦1名、事務職1名、計4名の常勤職員が配置される。他に、電話相談員（嘱託）2名配置される。

### ○ 昭和62年4月

精神科ソーシャル・ワーカー（PSW）が初めて配置される。

### ○ 昭和63年10月

三重県久居庁舎（久居市明神町2501-1）の完成に伴い同1階に移転する。

### ○ 平成元年4月

県の出先機関として独立

心理技術者（CP）が初めて配置される。

### ○ 平成6年4月 精神科医師1名増員。

## 2. 業務

当こころの健康センターは、「精神保健センター運営要領」（衛発第194号厚生省公衆衛生局長通知、昭和44年3月24日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

### 1) 技術指導援助

地域精神保健活動を推進するために、保健所及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導ならびに技術援助を行なう。

### 2) 教育研修

保健所で精神保健業務に従事する職員（精神保健担当者、保健婦等）に専門的研修と技術指導を行うほか、関係諸機関の職員には、教育訓練を行い、関係職員の技術的水準の向上を図る。

### 3) 広報啓発

一般住民に対する精神保健知識の普及啓発を行うとともに、保健所が行う広報普及活動に対して専門的立場から指導と援助を与える。

### 4) 調査研究

地域精神保健福祉活動を推進するために、必要な精神保健上の諸問題を調査研究するとともに、精神保健福祉に関する統計及び資料を収集整備する。

### 5) 協力組織の育成

地域精神保健の向上を図るために、精神医療施設や保健所その他の関係諸機関を単位としてつくられた協力組織の育成を図るとともに、他方、都道府県単位の組織を育成強化することに努め、地

域精神保健活動に対する住民の協力参加や各種社会資源の活用を円滑に行う。

#### 6) 心の健康づくり推進

近年の社会生活環境の複雑化に伴い県民各層の間において、ストレスが増大し、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増加している。これらの精神疾患に関する相談窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより住民の精神的健康を図る。

#### 7) 精神保健相談

保健所並びに関係諸機関が取り扱った事例のうち、複雑又は困難なものにつき実施する。また、これらのほか、一般住民の心の健康の保持、向上のために専門的な立場から相談指導を行う。

#### 8) 精神障害者福祉推進

精神障害者の自立と社会参加の援助を図るため 1. 精神障害者就労相談 2. 精神障害者自立援助 3. 社会復帰関連施設支援の事業を行う。

### 3. 施設の概要

#### 1) 所在地

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

三重県津市桜橋3丁目446-34 三重県津庁舎津保健所棟1階

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居市明神町2501-1 三重県久居庁舎1階

#### 2) 施設の状況

〔昭和61年5月1日～昭和63年10月8日〕

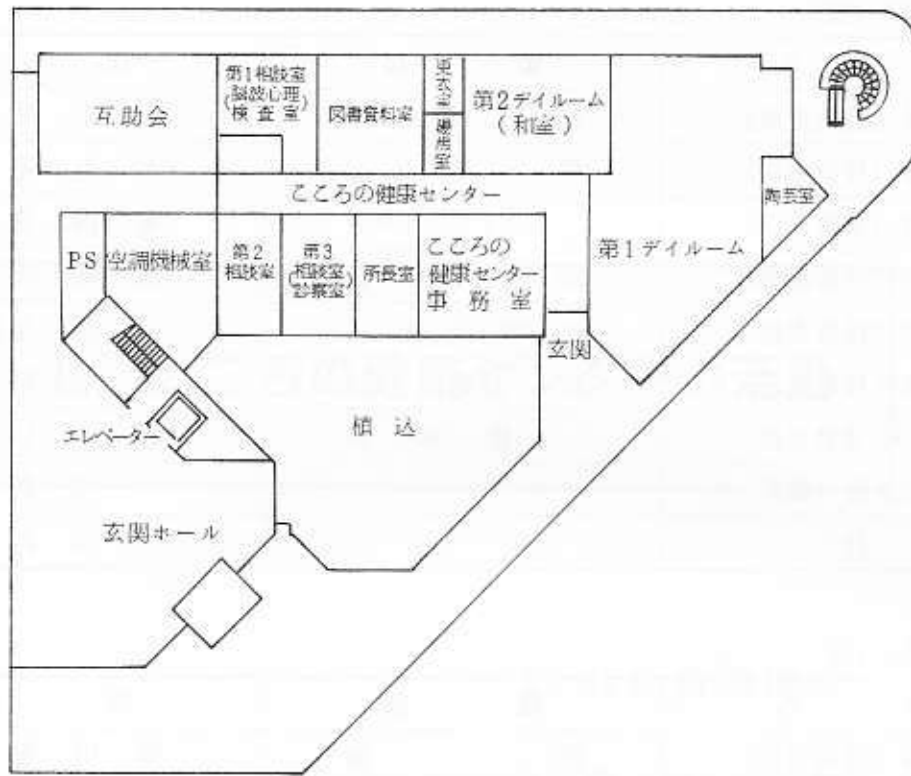
三重県津庁舎津保健所棟1階 1室 52.9㎡

〔昭和63年10月9日以降〕

三重県久居庁舎1階

ア	敷地面積（久居庁舎）		11,617.29 ㎡
イ	建物面積（本館棟）	延床面積	5,484.50 ㎡
ウ	建物構造（本館棟）	鉄筋コンクリート造4階建、一部5階建	
エ	当センター占有面積		723.0 ㎡
オ	各室面積		
	事務室（電話相談室、所長室）	65.2 ㎡	第1 デイルーム 140.4 ㎡
	第1 相談室（脳波、心理検査室）	30.8 ㎡	第2 デイルーム（和室） 44.8 ㎡
	第2 相談室	23.9 ㎡	陶芸室 11.3 ㎡
	第3 相談室（診察室）	26.5 ㎡	更衣室、湯沸室 12.0 ㎡
	図書資料室	37.0 ㎡	各室面積 計 391.9 ㎡

三重県こころの健康センター平面図



#### 4. 組織及び職員

所掌事務



職員構成

〔平成8年度〕

職 名	職 種	氏 名
所 長（技術吏員）	医 師	原 田 雅 典
副参事（技術吏員）	保 健 婦	吉 島 昭 子
主 幹（事務吏員）	ソーシャルワーカー	堀 田 重 行
主 幹（技術吏員）	医 師	松 崎 ま み
主 幹（技術吏員）	心 理 技 術 者	久 保 早 百 合
主 査（技術吏員）	保 健 婦	橋 本 晴 美
主任主事（事務吏員）	一 般 事 務	林 一 つ 子
電話相談員（嘱託）		2 名
計		9 名

〔平成9年度〕

職 名	職 種	氏 名
所 長（技術吏員）	医 師	原 田 雅 典
主 幹（事務吏員）	ソーシャルワーカー	村 木 顕 太 郎
主 幹（技術吏員）	医 師	松 崎 ま み
主 幹（技術吏員）	心 理 技 術 者	久 保 早 百 合
主 幹（技術吏員）	保 健 婦	竹 内 貞 子
技 師（技術吏員）	保 健 婦	藤 川 典 子
主任主事（事務吏員）	一 般 事 務	林 一 つ 子
技 師（技術吏員）	心 理 技 術 者	山 口 裕 子
電話相談員（嘱託）		2 名
計		10 名



## Ⅱ. こころの健康センターの活動

1. 技術指導援助
2. 教育研修
3. 広報啓発
4. 協力組織の育成
5. 心の健康づくり推進
6. 精神保健相談
7. 精神障害者福祉推進

## 1. 技術指導援助

### 〈技術指導援助〉

地域精神保健福祉活動の推進を図るため、保健所をはじめとして福祉、教育、その他の関係諸機関及び団体に対しその要請に応じて事例検討会、ケースコンサルテーション、研修会での講演、講義等技術指導援助を実施している。

平成8年度の技術指導援助は、765回であった。

これを経年的に見てみると、平成元年を100とした指数は、それぞれ平成2年度は、167.1、平成3年度190.6、4年度247.7、5年度271.9、6年度207.0、7年度273.8、8年度298.8と3倍に増加している。

指導援助機関別にその指導状況を見てみると保健所が一番多く、全体の32.0%を占めており、次いで教育機関、行政機関、福祉機関となり、特に福祉機関は今年の2倍となっている。医療機関、精神保健団体は若干減少しているものの、その他の機関においては、それぞれの指導援助回数は増加している。

保健所への指導援助回数は245回であり、その内容は地域で生活しているケースへの援助、デイケア、研修会等への技術援助が多く占めている。加えて業務検討会や連絡会議への援助が増加傾向になっている。

さらに本年度は、健康福祉政策課保護係の依頼により福祉事務所の生活保護担当者に対し、事例検討会を実施した。

平成8年度 関係機関への技術指導援助

関係機関	実施回数	参加人数	指導援助内容					職種別指導援助回数					
			ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会及び健康教育	その他	医師(A)	保健師(A)	ソーシャルワーカー	医師(B)	心理技術者	保健師(B)
保健所	245	2,157	28	18	28	28	141	53	62	15	30	55	33
福祉機関	63	335	20	—	—	9	34	10	11	4	1	20	9
医療機関	49	87	10	—	—	5	34	21	8	2	—	15	5
行政機関	129	639	13	4	—	17	95	70	7	1	9	33	9
教育機関	148	2,040	46	—	—	18	84	51	26	2	2	66	1
市町村	51	367	18	—	1	5	27	16	17	—	2	15	4
労働機関	7	22	1	—	—	—	6	1	4	1	—	1	—
司法機関	3	33	1	—	—	—	2	—	2	—	—	1	—
精神保健団体	20	689	—	—	—	6	14	2	1	2	2	6	13
学生教育実習	5	42	—	—	—	—	5	—	4	—	—	3	—
その他	45	352	6	—	—	9	30	16	11	1	2	9	6
計	765	6,763	143	22	29	97	475	240	153	28	48	224	80

平成8年度 保健所技術指導援助実施状況（再掲）

保健所	実施回数(回)	参加人数(人)	指導援助内容(回)							職種別指導援助回数					
			ケース援助	事例検討会	デイケア関連	研修会等	連絡会議	業務検討会	その他	医師(A)	保健婦(A)	フーシヨクワーカー	医師(B)	心理技術	保健婦(B)
桑名	22	210	3	2	4	3	1	-	9	3	7	4	6	1	1
四日市	23	229	5	3	1	2	-	-	12	7	3	-	1	8	4
鈴鹿	21	186	3	2	4	2	2	-	8	4	6	2	4	3	2
津	34	237	1	1	4	2	5	2	19	14	5	2	3	3	7
久居	21	158	3	1	3	3	-	1	10	1	3	-	1	12	4
松阪	34	427	4	1	2	4	9	2	12	2	9	2	2	19	3
伊勢	15	56	2	-	1	1	1	2	8	3	5	2	2	1	2
志摩	24	339	1	2	4	6	2	-	9	6	7	-	3	6	3
上野	23	110	6	3	-	1	-	1	14	8	5	2	4	1	3
尾鷲	12	98	3	1	1	3	1	1	3	4	6	-	1	-	1
熊野	16	107	-	2	4	1	-	4	6	1	6	1	3	1	4
合計	245	2,157	28	18	28	28	21	13	110	53	62	15	30	55	33

平成8年度 健康福祉政策課保護係 事例検討会

	実施月日	事例
1 回	8. 10. 22	・ 帰来先が遠隔地にある精神障害者の処遇について 事例提供 伊賀福祉事務所
2 回	8. 11. 27	・ 世帯員すべてが精神障害者の中の世帯員の自立について 事例提供 桑名市社会福祉事務所
3 回	9. 1. 24	・ 退院後の生活指導及び扶養義務者への働きかけについて 事例提供 名張市社会福祉事務所
4 回	9. 2. 20	・ ひきこもり、奇行等がある社会生活維持困難な事例の支援について 事例提供 四日市市福祉事務所

平成8年度 保健所事例検討会での検討事例

保健所名	実施月日	事 例
桑 名	8. 6. 12	・電話相談ケースへのかかわり
	8. 9. 18	・人との関係をうまく持てず孤独感のあるケースに対する保健婦の役割とは
四 日 市	8. 6. 11	・家族力量の乏しいアルコール依存症患者への支援について
	8. 10. 8	・うつ病にて治療中で自殺未遂のあったケースへの今後の支援について
	9. 2. 21	・訴えが多いケースを地域でどう支えていくか
鈴 鹿	8. 7. 1	・てんかん発作を頻繁におこす事例にかかわって
	8. 12. 13	・登校拒否の姉弟とその母親へのかかわり
津	8. 10. 31	・Kさんの地域支援体制をめぐって
久 居	8. 9. 30	・乳児を抱えた精神障害者への支援
松 阪	8. 12. 9	・単身者の生活の援助について
志 摩	8. 7. 16	・行動障害ケースへの就労継続に向けてのかかわり
	8. 11. 26	・生活リズムがつかめず葛藤状態にあるケースへの支援について
上 野	8. 6. 4	・母への依存度が高いケースへのかかわり
	8. 11. 14	・家族障害家庭に育つ17才の青年との面接のなかで
	8. 12. 4	・訴えの多いアルコール依存症のケースとのかかわり
尾 鷲	8. 10. 8	・単身の精神障害者への支援
熊 野	8. 8. 30	・病院受診につながったケースへの今後のかかわり方について
	8. 12. 6	・暴力を振るうケースと暴力に怯える両親に関わって

## 健康福祉政策課保護係事例検討会実施要領

### 1. 目 的

被保護精神障害者の事例を中心に生活保護制度の諸問題を検討する中で、あわせて課題別研修を実施することにより、現業職員の生活保護に関する認識を深めるとともに、障害者等要援護者への援助技術の力量を高める。

### 2. 研修内容

- 1) 参加者 参加希望福祉事務所より1名ずつ。
- 2) 回数 平成8年9月から平成9年3月までの間、約5回程度。
- 3) 内 容
  - ① 福祉事務所からの提出ケースや本庁へ協議のあったケースの中から検討事例を選択し、毎回検討するとともに、ケースの推移及び援助過程を検証する。
  - ② 社会資源としての精神障害者社会復帰関連施設等のヒアリング調査を実施し、ケース処遇の展開や地域生活支援の条件整備・活用方法を調査検討する。
  - ③ 事例検討の過程で浮き彫りにされた課題について、外部講師による課題別研修を設定し、事例の展開を検証する。
  - ④ 各福祉事務所、健康福祉政策課（保護係）、医務福祉課（監査指導担当）間の情報交換の場としても活用する。

### 3. 事務局

この研修は平成8年度事業であり、事務は三重県健康福祉部健康福祉政策課保護係が行う。

### 4. 報告書

検討会終了後、まとめとして、事例集等の報告書を作成配付する。

## 2. 教 育 研 修

- 1) 研 修 会
- 2) 学生の教育実習等

昭和61年5月、県保健予防課分室として開設された当センターは、主に保健衛生機関の職員を中心とした研修会を実施してきた。

平成元年4月1日付けで県の出先機関としてスタートし本格的に活動を開始した。三重県における精神保健の向上を図る総合的な技術中枢機関としての立場から保健衛生関係外の関連諸機関を対象とした研修を実施している。

平成8年度も昨年同様、8本の柱で実施した。福祉、教育、医療、労働、司法等、精神保健福祉推進のため、関連のある機関との連携も教育研修を機として深まってきていると感じる。

又、センターの整備に伴い見学、実習等も増加した。この見学、実習が精神保健福祉活動への理解を深める機になればと願っている。

教育研修、見学、実習等の実施状況は表のとおりである。又、各々の教育研修については後に詳しく述べる。

#### 平成8年度 教育研修実施実績

##### 1) 研 修 会

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
新任精神保健福祉担当者研修会	平成8年5月21日	市町村、県・市福祉事務所、保健所の関係者	48
精神保健事例検討会	平成8年9月10日	教育関係者	37
児童(青年)精神保健福祉研修会	平成8年11月9日	福祉、教育、医療、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	97
酒害保健研修会	平成8年6月29日 平成9年1月30日	福祉、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	600 49
地域精神保健福祉研修会	平成9年2月4日	福祉、教育、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	200
精神保健福祉専門講座 (精神保健福祉相談員継続研修会)	平成8年7月29日 31日 8月6日	市町村、県・市福祉事務所、保健所の関係者	延べ 54
老人精神保健福祉研修会	平成8年5月11日 10月26日	福祉、医療、保健、老人施設、その他の関係者	193 126
社会復帰指導者研修会	平成8年9月～ 平成9年3月 月曜日 年 21回	保健所精神保健担当者	65

計 32回 1,469名





(ウ) 児童（青年）精神保健福祉研修会

講義、事例検討等をとおして、今、子どもどもたちの中に起こっている、いじめ非行、不登校、自殺、家庭内暴力等の問題や「性」について考え、今後のあり方について検討する。

日 程	内 容															
平成8年11月9日(土) 10:00～16:00	<p>◎講 演 「児童思春期の子供と親をどうささえるか」 講師 東海女子大学文学部教授 生 田 純 子</p> <p>◎講 演 「学校精神保健活動の実際－登校拒否をめぐる－」 講師 岐阜県関保健所長 星 融</p> <p>◎グループケースカンファレンス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>助 言 者</th> <th>事例発表者名</th> <th>事例発表題名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生田 純子 先生</td> <td>大竹 恵子 岐阜県教育センター</td> <td>ハンディを持つ妹の兄</td> </tr> <tr> <td>岐阜県精神保健福祉センター医務課長 笠原 憲司 先生</td> <td>石山 和子 岐阜県揖斐福祉事務所</td> <td>不登校生徒の自立支援のありかた</td> </tr> <tr> <td>岐阜病院臨床心理科長 森川 士朗 先生</td> <td>井上 良純 三重県伊賀児童相談所</td> <td>自我形成に問題のある登校拒否児の例</td> </tr> <tr> <td>星 融 先生</td> <td>古村 讓 岐阜県中央児童相談所</td> <td>無断外泊を繰り返す女子中学生のケース</td> </tr> </tbody> </table>	助 言 者	事例発表者名	事例発表題名	生田 純子 先生	大竹 恵子 岐阜県教育センター	ハンディを持つ妹の兄	岐阜県精神保健福祉センター医務課長 笠原 憲司 先生	石山 和子 岐阜県揖斐福祉事務所	不登校生徒の自立支援のありかた	岐阜病院臨床心理科長 森川 士朗 先生	井上 良純 三重県伊賀児童相談所	自我形成に問題のある登校拒否児の例	星 融 先生	古村 讓 岐阜県中央児童相談所	無断外泊を繰り返す女子中学生のケース
助 言 者	事例発表者名	事例発表題名														
生田 純子 先生	大竹 恵子 岐阜県教育センター	ハンディを持つ妹の兄														
岐阜県精神保健福祉センター医務課長 笠原 憲司 先生	石山 和子 岐阜県揖斐福祉事務所	不登校生徒の自立支援のありかた														
岐阜病院臨床心理科長 森川 士朗 先生	井上 良純 三重県伊賀児童相談所	自我形成に問題のある登校拒否児の例														
星 融 先生	古村 讓 岐阜県中央児童相談所	無断外泊を繰り返す女子中学生のケース														

(エ) 地域精神保健福祉研修会

関係諸機関との連携のもとに、精神保健福祉活動を推進できるよう最近のトピックスをとりあげ知識の普及を図ることを目的とした。

今回、精神分析の中から「自立」と「依存」を取り上げ、より深い人間理解について役立てるものとした。

日 程	内 容
平成9年2月4日(火) 13:20～15:00	<p>◎講 演 「精神分析からみた自立と依存」 講師 慶応義塾大学・東京国際大学教授 小此木 啓 吾</p>

(オ) 酒害保健研修会

アルコール依存症は年々増加の傾向にあり、世界的にも大きな社会問題となっている。

また、アルコールに起因する問題は多岐に亘り多くの家族崩壊をきたしている。

アルコール依存症について適切な支援が展開できるよう関係者がその病理について正しく理解することが大切である。

アルコール依存症者の予防と早期治療をめざして、依存症者とその家族を支援していくうえでの方策を考えることを目的とした。

日 程	内 容
平成8年6月29日(土) 13:00~16:30	◎映画上映 「もうひとつの人生」 ◎講 演 「もうひとつの人生を語る」 講師 映画監督 小池 征 人
平成9年1月30日(木)	◎講 演 「高齢化社会とアルコール問題」 講師 関内クリニック院長 山 田 耕 一

(カ) 精神保健福祉専門講座（精神保健福祉相談員継続研修会）

精神保健福祉相談員の資質向上を図ることにより、地域精神保健福祉活動の推進に寄与することを目的とする。

日 程	10:00~	12:00	13:00~	14:30	~	16:00
7月29日(月) 10時~16時	「精神保健福祉をめぐる最近の動き」 こころの健康センター 所長 原 田 雅 典		「SSTの活用」 —理論と演習— 県立高茶屋病院 臨床心理 榊 原 規 之			
7月31日(水) 10時~16時	「職業リハビリテーション」 障害者職業センター カウンセラー 宮 崎 潔		「福祉における精神障害者のかかわり」 四日市市福祉事務所 副参事兼課長補佐 梶 川 学		「精神疾患の理解」 —最近の進歩— こころの健康センター 主幹（医師） 松 崎 ま み	
8月6日(火) 10時~16時	「グループワークの技法」 日本女子大学 社会福祉学部 教授 増 野 肇					

(キ) 老人精神保健福祉研修会

高齢者人口の増加に伴って、痴呆性老人の増加が予測されている。とりわけ、痴呆老人のケアは介護者の身体的、精神的負担は大きい。

一方、地域においては、家族の介護力が低下している現在、施設型サービスだけでなく在宅ケアサービスの充実強化が望まれている。

特有の精神症状や問題行動を起こす痴呆性老人とその家族のニーズにあった適切な支援ができるよう、地域における在宅ケアのあり方について考える。

日 程	内 容
平成8年5月11日(土) 15:00~17:50	<p>&lt;講 演&gt; 座長 三重大学医学部 精神神経科助教授 井 上 桂 「老人看護とセクハラ」 第一岩崎病院 看護部長 落 合 信 子</p> <p>&lt;特別講演&gt; 座長 三重大学医学部 神経内科教授 葛 原 茂 樹 「初老期・老年期のせん妄」 北海道立向陽ヶ丘病院長 高 橋 三 郎</p>
平成8年10月26日(土) 15:00~17:00	<p>&lt;講 演&gt; 座長 三重県こころの健康センター所長 原 田 雅 典 「対鏡症状について-家庭介護への工夫-」 小山田記念温泉病院精神科 中 林 正 人</p> <p>&lt;特別講演&gt; 座長 三重大学医学部神経内科教授 葛 原 茂 樹 「高齢者の抑うつ-その見分け方と治し方-」 帝京大学医学部精神科主任教授 広 瀬 徹 也</p>

(ク) 社会復帰指導者研修会

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ることを目的とした。

実施方法は3ヶ月を1クールとして年2回実施した。

今年度は市町村からの受講生もあり、各回の受講者は次のとおりである。

	第 一 回		第 二 回	
	平成8年9月~11月		平成8年12月~平成9年2月	
受 講 者	上野保健所	清 田 早 苗	桑名保健所	中 川 美 穂
	熊野保健所	岩 本 美 穂	津保健所	浅 井 美 尊
	青山町健康管理センター	平 田 幸 子	尾鷲保健所	升 田 加 奈
	〃	安 藤 千 秋		

社会復帰指導者研修会プログラム

内 容	開催回数	第 一 回	第 二 回
	開催月	平成8年9月～11月	平成8年12月～平成9年2月
オリエンテーション		1 (単位)	1 (単位)
集団指導実習		12	13
生活技術指導実習		3	3
作業指導実習		3	6
専門講義		1	1
計		20 (単位)	24 (単位)

※1単位4時間とする。

2) 学生の教育実習等

受 講 者 名	実施回数	受講者数
三重大学精神神経科新入局員	1	2
三重大学医学部地域実習	3	22
三重県立看護短期大学1年生・専攻科地域看護学専攻生	30	1,301
聖十字福祉専門学校	1	70
県立消防学校	1	139

計 36回 1,534名

### 3. 広 報 啓 発

- 1) ステッカー、リーフレットの作成
- 2) センターだより「こころの健康」の発行
- 3) 所報「こころの健康センター所報」平成7年度版発行
- 4) 見学者の受け入れ指導
- 5) 講演会、講義、座談会等

一般県民に対する精神保健福祉知識の普及啓発を目的とし、下記のとおり事業を行った。

### 1) ステッカー、リーフレットの作成

今年度は心の電話相談用ステッカーを作成し、各関係機関に配布するとともに、一般県民が幅広く相談できるように、県下のスーパーマーケットの店頭にはった。

また、「こころの健康センターご案内」のリーフレットを新しく作成した。

「職場のメンタルヘルス」のパンフレットも好評につき、500部増刷した。

・ステッカー「心の電話相談」	5,500部
・こころの健康センターご案内リーフレット	5,000部
・パンフレット「職場のメンタルヘルス」の増刷	500部

# 心の相談 **心のケア**

# 0592-56-3556

## 三重県こころの健康センター

### 2) センターだより「こころの健康」の発行

今年度も、3回（No. 29～31）発行し、関係諸機関へ配布した。各号の内容は、下記のとおりである。

発行年月日	内 容	執 筆 者
No. 29 平成8年 7月15日	精神保健福祉法へ ・昭和30年代半ば ・医療、そして保健・福祉 ・小さな作業所で <施設紹介> グループホーム 南風荘	三重県こころの健康センター所長 原 田 雅 典  いすゞ工房 指導員 又 市 婦美子

発行年月日	内 容	執 筆 者
	<p>グループホーム 竹の子荘</p> <p>デイ・ケア併設型介護寮 あじさい</p> <p>&lt;ペンリレー&gt;</p> <p>私の心の健康法</p> <p>&lt;平成8年度技術研修計画&gt;</p>	<p>松阪厚生病院 PSW</p> <p>倉 田 久美子</p> <p>医療法人北勢会生活訓練施設長</p> <p>佐 藤 貴 志</p> <p>員弁郡員弁町</p> <p>水 貝 和 代</p> <p>こころの健康センター</p>
<p>No. 30</p> <p>平成8年</p> <p>11月1日</p>	<p>特集：老年期のこころ</p> <p>老年期のこころを考える</p> <p>在宅リハビリテーション活動を通して</p> <p>地域リハビリテーション活動を通して</p> <p>「いきいき教室」から「はつらつ教室」へ</p> <p>訪問活動を通して</p> <p>訪問看護を始めて感じる心のケア</p> <p>痴呆性老人の家庭訪問を通して</p> <p>&lt;デイケア紹介&gt;</p> <p>上野病院</p> <p>デイケアセンター ほくせい</p> <p>上房T&amp;T 移転しました。</p> <p>&lt;私の心の健康法&gt;</p>	<p>三重大学医学部精神科 助教授</p> <p>井 上 桂</p> <p>湯の山老人保健施設 理学療法士</p> <p>勝 又 佑希子</p> <p>鈴鹿同生総合病院 リハビリセンター主任</p> <p>岡 野 昭 夫</p> <p>美杉村保健婦長</p> <p>平 谷 早百合</p> <p>阿児町ホームヘルパー</p> <p>池 村 佳 子</p> <p>社団法人 紀北医師会訪問看護ステーション</p> <p>「よろこび」管理者</p> <p>更 谷 真理子</p> <p>四日市保健所 保健婦</p> <p>萩 下 睦 子</p> <p>信貴山病院分院 上野病院看護婦</p> <p>青 木 さと子</p> <p>臨床心理士</p> <p>佐 藤 貴 志</p> <p>亀 山 市</p> <p>吉 田 正 彦</p>
<p>No. 31</p> <p>平成9年</p> <p>3月10日</p>	<p>「みえのくにづくり」に向けての精神保健福祉</p> <p>&lt;明日に架ける橋&gt;</p> <p>～ロングビーチ市ザヴェレッジと四日市市</p> <p>四季の里の活動～</p>	<p>三重県健康福祉部医務政策監</p> <p>小 野 喜志雄</p> <p>精神障害者社会復帰施設</p> <p>四季の里施設長 増 田 令 子</p>



発行年月日	内 容	執 筆 者
	<市町村の精神保健福祉活動> 精神障害者福祉の充実に 青山町における精神保健活動 <地域家族会> はじめまして「みしま会」です <福祉の店「パレット」開店> ベルンティ内に福祉の店が <私の心の健康法>	青山町保健福祉課長 西 田 麒代彦 青山町係長(保健婦) 平 田 幸 子 鈴鹿厚生病院 ケースワーカー 村 治 儀 裕 四日市市 西 本 隆 子

3) 所報「こころの健康センター所報」平成7年度版発行 1000部

#### 4) 見学者の受け入れ指導

受 講 者 名	実 施 回 数	受 講 者 数
三重大学精神神経科新入局員	1	2
三重大学医学部地域実習	3	22
三重県立看護短期大学専攻科地域看護専攻生	1	13
計	5	37

#### 5) 講演会、講義、座談会等

精神保健福祉に関する知識の普及啓発を目的とし、関係諸機関からの要請により実施した。

今年度の講演等の実施回数は、48回で、対象者は2,215名であった。講演等の内容は、ライフサイクルにおける心の健康、職場や地域における精神保健福祉、精神障害者の病気への理解・かかわり方など地域社会での支援、また社会復帰など多岐にわたっている。

派遣先もその領域が広がり、多方面からの要請が増えている。今後ますますセンターへの期待が大きくなっていくことが予想される。

平成8年度他機関からの依頼の講演会等

月日	名称	内 容	対 象 者	主 催	派遣者
H. 8. 4. 18	総会	講演「三重県の地域精神保健」	会員 30名	三重精神医会	医師
5. 15	地域家族会（ふるさと会）	講演「精神障害者の社会復帰を支える作業所の役割」	会員、関係者 30名	伊勢地域家族会（ふるさと会）	医師
5. 29	結成1周年記念大会	講演「障害者と共に生きる」	工作所関係者、家族会員等 70名	伊賀太陽工作所	医師
6. 6	育児教室（きらきら教室）	演習「仲間をつくろう」	保護者、関係者 23名	多気町	臨床心理士
6. 24	結成大会	講演「共に暮らす一心の障害者と家族の心の健康」	家族、関係者 80名	志摩保健所	医師
6. 28	一家連大会	講演「これからの精神保健福祉」	家族会会員、当事者、ボランティア、関係者等 300名	三重県精神障害者家族連合会	医師
7. 3	育児教室（すくすく教室）	演習「仲間をつくろう」	保護者、関係者 13名	多気町	臨床心理士
7. 14	ボランティアリーダー研修会	講演「精神障害者を理解し地域で支える」	ボランティアリーダー 60名	尾鷲市社会福祉協議会	医師
7. 17	育児教室	講演「赤ちゃんのこころを育む」	母親、関係者 35名	菟野町	保健婦
7. 17	ボランティア継続研修会、家族会勉強会	講演「精神障害者と病者への理解」	ボランティア、家族関係者 29名	桑名保健所	医師
7. 18	中勢ブロック老人福祉施設職員研修会	講演「人生の達人とのつき合い方」	施設職員、関係者 70名	特別養護老人ホームげいのう逢春園	臨床心理士
7. 19	民生委員女性部会	講演「精神疾患の理解と精神障害者への援助」	民生委員、関係者 40名	伊勢市役所	医師
7. 29	生保担当査察指導員研修会	講演「保健所の精神保健活動に対するスーパービジョンの経験」	査察指導員 26名	泉医務福祉課	医師
7. 30	こどもの健康づくりセミナー	講義・演習「サイコドラマ入門」	管内小・中学校教員 73名	久居保健所	臨床心理士
8. 1	教育相談サークル研修会	講演「不登校児童・生徒のとらえ方・かかわり方」	小・中学校教員 11名	安芸郡教育振興会	臨床心理士
8. 8	精神家族交流会	講演「家族の役割を考える」	家族、関係者 10名	鈴鹿保健所	臨床心理士

月 日	名 称	内 容	対 象 者	主 催	派遣者
8.19	ヘルスカウンセリング研修講座	講義「子どもの心の発達と課題」	研修講座受講生 136名	県教育委員会体育保健課	臨床心理士
9.24	桑名市適応指導教室ふれあい教室保護者会	講義「不登校の子どもへの家庭でのかかわり方」	保護者、担当教諭 8名	桑名市教育研究所	臨床心理士
10.7	ボランティア継続研修会、家族会勉強会	演習「精神障害者とのかかわり方」	ボランティア、家族関係者 17名	桑名保健所	臨床心理士
10.8	松阪地域精神保健連絡会	講演「精神疾患の理解と精神障害者の理解のために」	連絡会構成メンバー 他 38名	松阪保健所	医師
10.15	ヘルパー研修会	講演「障害・疾病の理解」	ヘルパー希望者 90名	まごころサービス	医師
10.23	精神保健福祉ボランティア講座	講演「地域における精神保健福祉活動について」	受講生 36名	志摩保健所	保健婦
10.25	管内保健婦連絡協議会	講演「精神疾患の理解について」	管内保健婦 18名	熊野保健所	医師
10.28	桑名市ボランティア教室	講演「地域で精神障害者を支えるということ」	受講生、社協職員、看護学生他 22名	桑名市社会福祉協議会、桑名保健所	保健婦
10.30	精神保健ボランティア継続研修会	講演「地域で支えるために－病気の正しい理解」	ボランティア、看護学生 22名	上野保健所	医師
11.5	精神保健福祉ボランティア講座	講義・演習「よりよい出会いのために」	受講生 35名	志摩保健所	臨床心理士
11.6	育児教室	講義「子どものこころを育む」	母親、関係者 35名	菟野町	保健婦
11.12	労働安全衛生松阪地区大会	講演「職場のメンタルヘルス」	関係者 200名	松阪労働基準協会	医師
11.19	精神保健福祉ボランティア講座	講義「ライフサイクルと心の健康」	受講生 38名	志摩保健所	医師
11.26	専科教養	講義「こころの病とカウンセリング」	婦人警察官 14名	県警察本部	医師
11.29	津地域家族会	講演「最近の精神科治療について」	家族会会員他 15名	津保健所	医師
11.30	家庭教育セミナー	講演「母と子の関係を見直しませんか－乳幼児期－」	乳幼児をもつ母親 30名	安濃町公民館	臨床心理士
12.12	東海ブロック勤労青少年指導者実務能力向上研修会	講演「若者の心の問題とその対応」	勤労青少年指導員 70名	県労政課	医師

月 日	名 称	内 容	対 象 者	主 催	派遣者
H. 8. 12. 17	子育て講演会	講演「子育てに今大切なこと」	保護者 53名	三雲北保育園	臨床心理士
12. 18	推進員合同研修会	講演「こころとこころの出会いについて」	母子保健推進員、 健康づくり推進員 43名	東員町	保健婦
12. 18	ふれあい教室保護者会	講演「思春期の心性について」 「不登校児に対する家族の支援」	保護者、担当教諭 7名	桑名市教育研究所	臨床心理士
12. 20	鈴鹿地域家族交流会	演習「仲良くしよう」	家族他 5名	鈴鹿保健所	臨床心理士
II. 9. 1. 11	家庭教育セミナー	講演「母と子の関係を見直しませんかー児童期編」	乳幼児・児童期の 子供をもつ母親 30名	安濃町公民館	臨床心理士
1. 13	在宅栄養士ブロック研修会	講義・演習「サイコドラマ入門」	久居、津、上野ブ ロック在宅栄養士 22名	久居保健所	臨床心理士
1. 22	県立看護短大施設見学	講義「センター事業の概要について」 講義「地域精神保健福祉活動」	地域看護専攻生・ 引率教官 13名	県立看護短期大学	ワーカー 保健婦
1. 23	精神保健研修会	講演「身近にある心の病気について」	管内民生委員 100名	伊勢保健所	医師
2. 1	家庭教育セミナー	講演「母と子の関係を見直しませんかー思春期編」	児童期・思春期の 子供をもつ母親 30名	安濃町公民館	臨床心理士
2. 14	家族教室	講義・演習「家族のリフレッシューサイコドラマをとおしてー」	家族、作業所職員、 保健婦他 26名	四日市保健所	臨床心理士
2. 15	地域家族会 まつの会2月例会	講演「精神障害者の自立」	会員、ボランティア、 保健婦他 約30名	松阪地域家族会 まつの会	医師
2. 20	精神保健ボランティアスクール	懇談会「センターの紹介」 「精神保健ボランティア」	受講生、関係者 19名	鈴鹿市社会福祉 協議会	保健婦
2. 20	教育研究所講座	講演「不登校の子どもの現状とその対応」	小・中学校教員 約40名	桑名市教育委員会	臨床心理士
2. 21	講演会と懇談会	講演「子育て応援」	保護者、職員 35名	津新町保育園	臨床心理士
3. 4	育児教室	講義「乳幼児のこころを育む」	母親、関係者 38名	菰野町	保健婦

計 48回 2,215名

## 4. 協力組織の育成

- 1) 関係団体への協力援助
- 2) 地域家族会リーダー研修会
- 3) 精神保健ボランティア教室

## 1) 関係団体への協力援助

### (ア) 三重県精神障害者家族連合会（三家連）

三家連が発足以来28年が過ぎようとしている。会員の高齢化や会員の確保などの問題を抱えながらも、地域においては、保健・医療・福祉等関係機関の連携強化にくわえて、精神保健ボランティアグループの支援を得て、精神障害者の社会復帰など様々な活動への取組がなされている。

家族会の育成とともに、こうした関係領域拡大と連携の強化を目指して指導援助を行った。

三家連の運営に関する助言指導はもとより、例年開催される三家連精神保健大会の企画、運営や三家連誌「あゆみ」の編集のほか、毎年三家連役員とセンター所長の懇談会などを行っている。

### (イ) 精神障害者地域家族会

県内の地域家族会は、現在、病院家族会5か所、地域家族会8か所が活動している。

地域家族会への援助は、下に保健所において開催されている各家族会の定例総会への参加や、会独自で計画された研修への講師の派遣等行ってきた。平成4年度から平成6年度にかけて、家族会が中心となり8か所の共同作業所が開設され、地域の受け皿づくりへの積極的な取組が行われてきたがセンターとして、情報提供や各関係機関との連絡調整等の援助を行ってきている。

### (ウ) アルコール関連組織（断酒会等）

三重断酒新生会は昭和47年に結成され、アルコール依存症の自助組織として独自の活動を行っている。

県内には、6ブロック13支部で各々例会がもたれるなど、地域に根ざした活動が行われている。また、病院内においても断酒会が結成され活動している。

地域においては、従来から「アルコール問題予防のためのネットワーク会議」が開催され、センターも世話人の一人として参画している。

また今年度は、アルコール問題を考える三重ネットワークの会と三重断酒新生会が主催で映画「もうひとつの人生」の上映と講演会を実施した。当センターは、共催として準備から協力、支援した。

平成8年度の協力援助状況は次の通りである。

内 容	実 施 回 数
アルコールネットワーク会議及び連続講座	2 回
三重断酒新生会	4 回
映画「もうひとつの人生」準備会等	7 回

## 2) 地域家族会リーダー研修会

保健所を拠点とした地域家族会活動の推進を図るため、平成2年度から標記の研修を開催している。現在8ヶ所の保健所に地域家族会が結成されており、その活動は年々活発になってきている。

なかでも、共同作業所等社会復帰の受け皿づくりについては、関係諸機関や団体との連携協力の下、県下各地での取り組みが盛んになってきている。

これらの活動をさらに推進するため、関係者の研修および相互の交流を図り、精神障害者の社会復帰体制の整備を促進することを目標とし、今年度は三重県で開催された「平成8年度家族会精神保健福祉推進活動研修会」へ三家連と共催で下記の研修を実施した。

研修内容は、次のとおりである。

	研 修 内 容	参加者数および対象者
第1日 平成9年 1月29日	・甲州・東海ブロック各県連活動報告 ・講演「援助するもの 援助されるもの」 南山短期大学副学長 人間関係学科 教授 星 野 欣 生	24名 共同作業所長および指導員、 家族員会員、ボランティア 等関係者
第2日 平成9年 1月30日	・講演「暮らしの中で力をつける」 勸石神記念医学研究所主任研究員 石 神 文 子 ・分科会「作業所でのケアと運営」他	対象者 同上
第3日 平成9年 1月31日	・当事者体験報告 ・講演「治療とリハビリテーション」 三重県立高茶屋病院 医長 木 村 章 弘	対象者 同上

## 3) 精神保健ボランティア教室

地域で生活する精神障害者への理解を深め、それを支援することを主な目的として、平成元年より精神保健ボランティア教室を開催している。

平成8年度も、これらの活動の充実、拡大を図るため下記実施要領に基づき教室を開催した。

## 精神保健ボランティア教室実施要領

### 1. 目 的

精神障害者の治療や、社会復帰に対する考えは、従来の入院治療中心から、地域精神医療へと次第に視点を移してきている。

このような状況のもとでは、社会資源をいかに有効に活用するかが精神障害者の社会復帰を促進していくうえで重要な要素となる。特に人的資源について考えるなら、従来は医師、看護婦、ソーシャルワーカー、保健婦などの専門的な人々によって支えられてきたが、地域に根ざした生活の場（共同作業所や回復者クラブ、共同住居など）が、志向されている現在の状況のもとでは、専門家集団による力だけでは、その目的を達しえない。むしろ、より広く、人的資源を求めていくことで、これを支え押し進めていくことができるものと期待されている。

そこで、このような人材を精神保健ボランティアとして、育成していくことを目的として、ボランティア教室を催すものとする。

### 2. 主 催

三重県こころの健康センター

### 3. 日 時

平成8年8月1日(休)～11月21日(休)

毎月第1、3木曜日(13:30～15:30)

### 4. 会 場

三重県こころの健康センター

### 5. 対 象

精神保健やボランティア活動に興味があり、受講後ボランティアとして活動する意志のある方および受講を通して自己の心の健康づくりを図ろうとする方。

### 6. 内 容

別表プログラムのとおり。

### 7. 費 用

受講料は無料とする。

### 8. 募集方法

一般公募

### 9. 申し込み方法及び期日

申し込み用紙により申し込む。締切り 7月19日(休)但し定員に達し次第締め切る。



## 精神保健ボランティア教室実施状況

平成元年度より開催しているボランティア教室は、年々受講希望者が増加している。

今年度も従来通り、県下各市町村広報等の掲載を依頼し公募したところ、多数の受講希望があった。その為、定員を上回って受け付け、教室を開催した。

### (1) 内容（プログラム）及び受講者数

		内 容 (13:00~15:30)		受講者数
第1回	8月1日(木)	開講式 オリエンテーション 自己紹介	講義「ボランティア活動とは？」 三重県社会福祉協議会 蒔田 勝義	28
第2回	8月22日(木)	講義「地域における精神保健福祉活動について」 三重県こころの健康センター副参事 (保健婦) 青島 昭子		25
第3回	9月5日(木)	心理トレーニング「よりよい出会いのために」 三重県こころの健康センター主幹 (臨床心理士) 久保 早百合		29
第4回	9月19日(木)	講義「ライフサイクルと心の健康」思春期・青年期 三重県こころの健康センター主幹 (精神科医) 松崎 まみ		29
第5回	10月3日(木)	講義「ライフサイクルと心の健康」中年期・老年期 三重県こころの健康センター所長 (精神科医) 原田 雅典	施設見学実習についての説明	29
第6回	10月17日(木)	施設見学実習 「精神障害者共同(小規模)作業所・保健所デイケアなど」		29
第7回	11月7日(木)	グループワーク 施設見学実習後の情報交換 精神保健ボランティアとは		24
第8回	11月21日(木)	精神保健ボランティアグループの活動紹介 グループワーク 「これからのボランティア活動について」 閉講式		25

## (2) 受講者の状況

年度別、各保健所管内別受講者数（平成4年度～平成8年度）

年度	総数（人）	桑名	四日市	鈴鹿	津	上野	久居	松阪	伊勢	志摩	尾鷲
H8	29	0	2	10	8	2	1	1	4	1	0
H7	53	0	3	6	14	3	12	6	5	3	1
H6	52	4	3	13	5	2	7	12	4	2	0
H5	44	1	14	1	5	8	6	5	4	0	0
H4	37	0	3	8	5	4	12	2	2	1	0

平成8年度 受講者の年代別、職業別状況

年代	区分 人数	有 職 者						な し	ボランティアの経験	
		会社員	団体職員	医療関係	パート	農業	その他		有	無
20	1						1			1
30	5						2	3	5	
40	11				1		5	5	8	3
50	9			1			1	7	5	4
60	3							3	1	2
70以上	0									
計	29	0	0	1	1	0	9	18	19	10

・受講生の年齢層は、40代と50代で約7割を占める。

・ボランティア経験については約2/3は何らかのボランティアの経験のある人である。

## (3) まとめ

参加希望者が年々増加しており、精神保健に対する関心が高まってきていることが伺われる。例年は、それに対し、定員を上回る受講数を取り教室を実施してきたが、今年度は教室の運営上の都合で30名の定員を守り実施した。

今年度の参加者は、ボランティア経験のあるものが例年より多く全体の65.5%を占め、すでに作業所でボランティアを始めている者も3名あった。

参加動機について、福祉活動に関心がある（34.4%）、精神障害者の接し方を知りたい（27.6%）、精神保健ボランティアをしたい、精神的な病気について知りたい（24.1%）が上位を占めた。

すでに他の分野で活動をしている者の中には、身体障害者と係わってきた中で心のケアの大切さを感じ参加したという広い意味での精神保健を学ぶ目的の者もあった。

そして、教室終了時のアンケート結果より、教室を受講して精神障害者のイメージについて多かったものは、次のとおりであった。

- ・自分たちとあまり変わらない人たちと感じた。
- ・自分もいつ障害者になるか分からないので、同じ立場で考える必要がある。

・知的障害との区別がついた。

また、今後の活動については、デイケア・作業所でやりたい(34.5%)、すぐには踏み切れないができる範囲から始めたい(20.7%)、近隣の人に偏見を持たないよう啓蒙したい(3.4%)、心の健康について地域や家庭の皆と考えていきたい(3.4%)と約6割の者が、何らかの形で精神保健活動にかかわっていこうという意思があることが分かった。

#### (4) 今後の課題

当センターの精神保健ボランティア教室も7年目を迎えたことや最近、保健所単位でもボランティア教室が開催されるようになり、各地にボランティアグループができてきている。

しかし、現状では各々のグループは横のつながりをもっておらず、それぞれが保健所のデイケアや作業所で活動をしている。今後は、それらをつなげ、互いの活動を深めていけるような研修会や情報交換などを実施し、精神保健ボランティア連絡協議会の結成に向けていく必要がある。

#### (5) 精神保健ボランティア教室修了者の活動状況

当センターの精神保健ボランティア教室修了者の中から「至心会」という精神保健ボランティアグループが平成2年1月に結成され、平成4年10月には「三重てのひら」と改称しボランティア活動を続けている。

当初は、こころの健康センター事業への協力、地域家族会への支援が中心の活動であったが、平成5年度は、精神障害者共同(小規模)作業所「工房T&T」開所に向けての資金作り、家屋の提供など積極的なボランティア活動を展開し開所に至らせた。またそのほかに平成7年1月発生した阪神大震災では、救済物資を集めて送る等のボランティア活動も熱心に行われた。このような活動の功績が認められ平成7年12月5日の第28回精神保健三重県大会において三重県精神保健協議会会長表彰を受けた。

現在、会員は男女合わせて78名で桑名から志摩までの広い地域にわたっており、主に地域の共同作業や保健所のデイケア等で活動をしている。

(具体的な活動内容)

- ① 精神障害者の家族会活動への協力。
- ② 共同作業所への支援。
- ③ こころの健康センターや保健所の実施している社会復帰事業への協力。
- ④ 精神保健福祉に関する各種研修会への参加及び協力。
- ⑤ 総会、役員会、例会の開催
- ⑥ 会報「三重てのひら」の発行
- ⑦ 広報、啓発活動
- ⑧ ボランティア資金獲得活動(バザー)
- ⑨ 他のボランティアグループとの交流

## 5. 心の健康づくり推進

- 1) こころの健康づくり教室
- 2) こころの健康づくり推進連絡会議
- 3) 思 春 期 講 座

近年の社会生活環境の複雑化に伴い、これらに適応するためのストレスが増大、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増大している。

こころの健康センターでは、これら精神疾患に関する窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより、精神保健の保持を図る目的で次の三事業を実施した。

#### 1) こころの健康づくり教室

今年度のこころの健康づくり教室は、回復途上にある精神障害者の社会参加に向けての交流の場として、昨年に引き続き「こころの健康づくりフェスティバル」を開催した。

### 「こころの健康づくりフェスティバル」実施要領

#### 1. 目 的

県内の社会復帰施設、共同作業所のメンバー、保健所、病院、こころの健康センターデイケア等地域社会の中で生活し社会復帰を目指す人々が一堂に集まり、家族、ボランティア、各関係機関の参加のもとスポーツ、レクリエーションなどを通して交流、互いの理解を深め、精神障害者の社会復帰を図る。

#### 2. 開催日時

平成8年9月28日(土) 午前10:30～午後3:00

#### 3. 場 所

久居市総合体育館 久居市野村町877-1 ☎059-255-6081

#### 4. 主 催

こころの健康づくりフェスティバル実行委員会

デイケア実施保健所(桑名、四日市、鈴鹿、津、久居、松阪、伊勢、志摩、上野、尾鷲、熊野)

デイケア実施病院(国立療養所榊原病院、県立高茶屋病院、四日市日永病院、松阪厚生病院、鈴鹿厚生病院、上野病院)

共同作業所(わかば共同作業所、すずわの家、松阪工作所、ふるさと工房、みのり工房、いすず工房、工房T&T、太陽工作所、オレゴン、桑友)

社会復帰施設「四季の里」

三重県精神障害者家族連合会、地域家族会

三重てのひら「精神保健ボランティア」

こころの健康センター

#### 5. フェスティバル実行委員会の設置

フェスティバルの成果をより高めるために上記関係機関から実行委員を選出願い、実行委員会を開催しフェスティバルの具体的な内容、準備等について検討を行う。

## 6. プログラム

- ① 誰もが参加しやすいレクリエーション、スポーツ（運動会競技）を中心とした内容で別途さだめる。
- ② 各施設、デイケア等の作品の展示を行う。

## 7. 広 報

- ① フェスティバルのポスターを作成、各関係機関に配布、案内するとともに参加を呼びかける。
- ② その他新聞等により広報活動を行う。

### こころの健康づくりフェスティバルプログラム

期 日 平成8年9月28日(土)

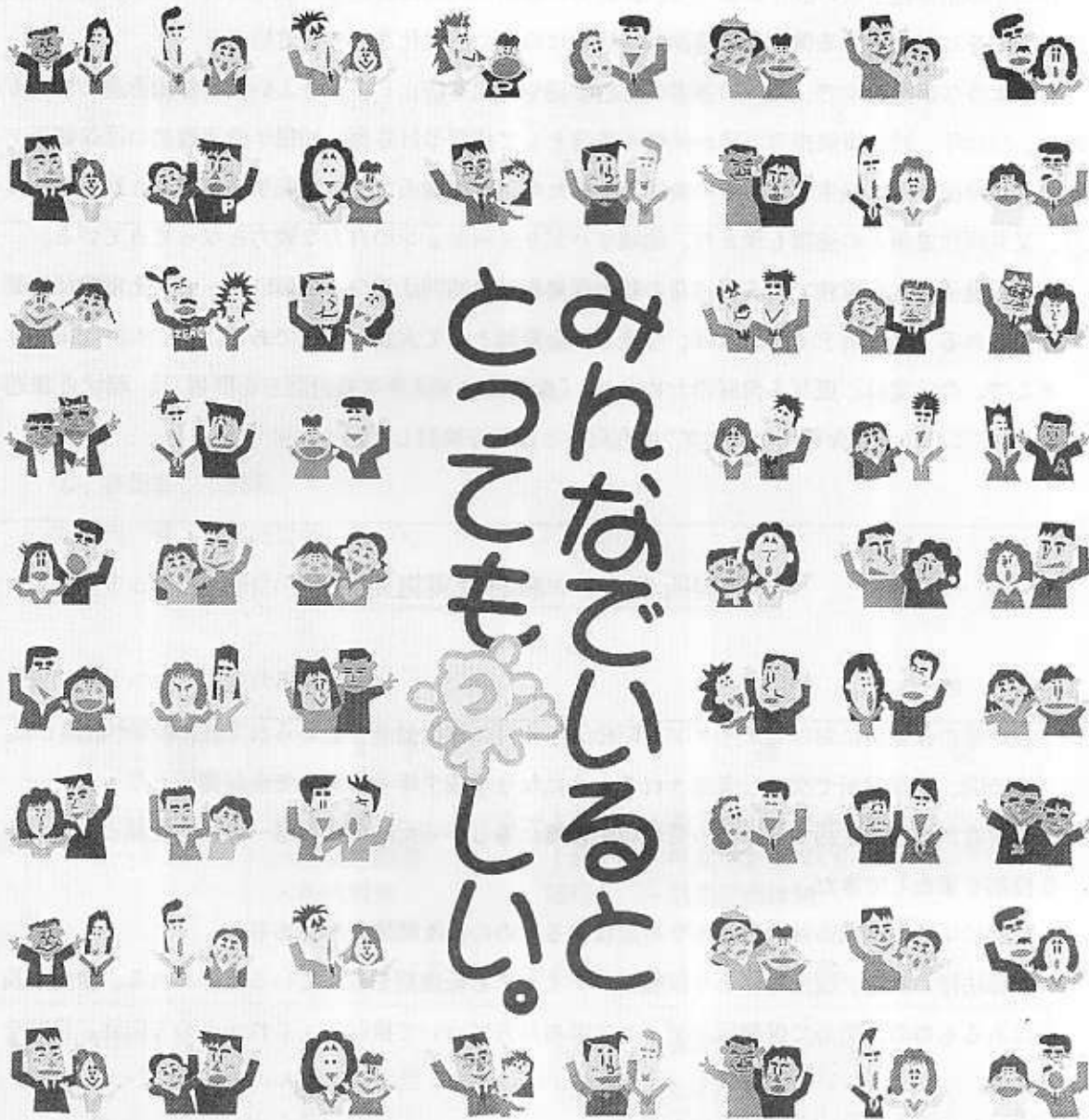
場 所 久居市総合体育館 久居市野村町877-1 ☎059-255-6081

日 程

10:00	受付	12:00	昼食・休憩
:25	集合（グループ別に集合、プラカードを先頭に入場行進）	1:00	《午後の部》
:30	開会式 開会宣言、実行委員長挨拶、来賓挨拶、競技の説明・注意事項、選手宣誓、リズム体操	④	折紙飛行機 全員参加
		⑤	パン食い競争 個人競技
		⑥	玉入れ 団体競技
		⑦	フォークダンス 全員参加
11:00	《午前の部》	2:45	閉会式
	① ジャンケンゲーム 全員参加		講評、閉会宣言
	② 風船ゲーム 団体競技	3:00	終了
	③ ウルトラクイズ 全員参加		

\*作品の展示は会議室を使用

障害者の交流の場としてすでに6回のこころの健康づくりフェスティバルを開催しました。年々参加者も増え当日400名余の参加でした。精神障害者が地域社会の中で生活し、社会復帰につながる一日であったように思います。また、回を重ねるにつれ年1回のフェスティバルを心待ちにしてくれている人、団体間の交流の場にもなっているようです。



みんながいてとこっこもしい。

社会参加にむけての交流の場

# 地域こころの健康づくりフェスティバル

●プログラム

- 10:00～ 開会
- 11:00～ ゲーム、歌合戦  
（リハビリゲーム、楽器ゲーム、ダンスゲーム）
- 12:00～ 昼食・休憩
- 13:00～ サトル、歌合戦  
（歌合戦、パズル、絵画、入札ゲーム、フーリングス）
- 14:45～ 閉会

●主催

- こころの健康づくりフェスティバル実行委員会
- ◆ボランティア団体  
（ボランティアセンター、市民会館、NPO、NLD、NPO、NPO）
- ◆ボランティア団体  
（ボランティアセンター、市民会館、NPO、NLD、NPO、NPO）
- ◆ボランティア団体  
（ボランティアセンター、市民会館、NPO、NLD、NPO、NPO）
- ◆ボランティア団体  
（ボランティアセンター、市民会館、NPO、NLD、NPO、NPO）
- ◆ボランティア団体  
（ボランティアセンター、市民会館、NPO、NLD、NPO、NPO）
- ◆ボランティア団体  
（ボランティアセンター、市民会館、NPO、NLD、NPO、NPO）
- ◆ボランティア団体  
（ボランティアセンター、市民会館、NPO、NLD、NPO、NPO）

H89/28

AM10:30-PM3:00

久居市総合体育館

久居市野村町977-1 TEL0592-55-6081

TEL0592-55-6081



●お問い合わせ先●

三重県こころの健康センター

三重県久居市明神町2501-1

TEL0592-55-2151



## 2) こころの健康づくり推進連絡会議

1965年の精神衛生法の改正によって、保健所の業務に精神保健活動が加えられて以来、精神保健相談や訪問をはじめとする保健所の精神保健活動は徐々に活性化されてきている。

このような状況の中で、精神障害者の生活破綻や再発を防止し、よりよい社会参加を進めていくために、1975年、社会復帰指導事業が保健所業務として位置づけられ、1976年県下最初の「保健所デイケア」が津保健所に誕生した。その後20年を経た今、全保健所で「デイケア」が実施されるようになり、又共同作業所との連携も深まり、地域リハビリテーションの有力な戦力となってきている。

特に保健所の本来業務である、日常の精神保健相談や訪問活動などの個別サービスと密接に連動して展開される「保健所デイケア」は、今後も社会資源として大切な存在である。

そこで、今年度は、更なる発展のためにも、「保健所のデイケア検討会」を開催し、現状と課題の中から、“これからの保健所デイケア”の方向性と役割を検討した。

### 保健所デイケア検討会実施要領

#### 1. 目 的

我が県の保健所におけるデイケアも昭和51年4月に津保健所で始められて既に20年が経過した。その間、各保健所で次々と実施されるようになり平成7年4月現在で全保健所となった。

障害者が地域で生活するための受け皿が皆無に等しかった時代には唯一の社会資源として大きな役割を果たしてきた。

最近10年間に地域の社会資源もその差はあるものの徐々に増えつつある。

関係法律の制定、改正等により保健所のデイケアも転換期を迎えていると思われる。歴史の長短はあるものの、更めて保健所のデイケアのあり方について検討し、これからの方向性、役割を考える。

#### 2. 対 象 保健所デイケア担当者

#### 3. 内 容

第1回 平成9年2月14日(金) 13:30~16:00

① 各保健所のデイケアの現状と課題

(1保健所 8分・津を除く10保健所)

② 話題提供

津保健所デイケアの歩み(40分)

—その評価の試みと課題—

第2回 平成9年3月18日(火) 13:30~16:00

① 講義(13:30~15:00)

「これからの保健所デイケア」



講師 川崎市宮前保健所保健予防課主任 田中英樹

② フリーターキング (15:10~15:40)

—これからのデイケアに向けて—

4. 場 所

第1回 久居庁舎 第24会議室 (2F)

第2回 こころの健康センター 第1デイルーム

(1) 開催状況

<第1回>

- ① 日 時 平成9年2月14日(金)  
13:30~16:00
- ② 参加者 22名
- ③ 内 容 実施要領に基づく
- ④ まとめ 保健所デイケア実施状況と課題

保健所デイケア実施状況

HC	開設年月日 平均会員数	ス タ ッ プ	課 題
桑 名	H4年11月13日 8~9人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦 2~3名</li> <li>・予防課担当 1名</li> <li>・所内職員 随時</li> <li>・関係機関職員</li> <li>・ボランティア 3~4名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆるレベルの障害の受け皿</li> <li>・卒業生が少ない</li> <li>・危機管理体制</li> <li>・プログラムの充実</li> <li>・スタッフの姿勢、関わり方</li> </ul>
四 日 市	S53年4月 15~20人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦 3名</li> <li>・予防課担当 1名</li> <li>・所内職員</li> <li>・関係機関職員</li> <li>・精神科医師 随時</li> <li>・ボランティア</li> </ul> <p>フリースペース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア</li> <li>・DC 担当者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保険加入について 予算措置がない</li> <li>・プログラム…レクリエーション的なもの の中心</li> <li>・市町村との役割分担 市町村…従来のデイケア 保健所…SST等</li> <li>・こころの健康センター ランチ方式で支援を</li> <li>・デイケア～次のステップへ 受け皿が地域に少ない 送り出せない</li> <li>・通リハ制度の充実</li> </ul>
鈴 鹿	S63年3月 6~10人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦 2名</li> <li>・予防課担当 1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイケア～次のステップへ 通リハ制度の充実</li> </ul>

鈴 鹿	S63年3月 6～10人	・栄養士 随時 フリースペース ・DC担当者	協力事業所の開拓 ・開催回数の増加 ・プログラムの充実 ・ボランティア導入を図りたい ・自由に集まれるクラブ的な「憩いの場」の確保 ・SST、作業体験等取り入れたい
津	S51年11月 15～25人	・保健婦 ・予防課担当 ・栄養士 ・ボランティア  フリースペース ・DC担当者 *DCの他にフリースペース 「ミニひろば」開設	・デイケア20周年記念誌の作成を通してのまとめ 「津保健所のデイケアの歩み」 －その評価の試みと課題－ ・データを整理する際に困った事 ・資料の不揃い ・個別ケースの背景 ・デイケア後の状況 どうしてDCにこなくなったのか その後どうしているのか ・今後の課題 ・量的評価 ・質的評価 個の評価 集団の評価 ・評価から考えるデイケアのあり方
久 居	H7年4月 2～3人	・保健婦 ・予防課担当 ・栄養士	・会員数が少ない ・1回のみの参加が多いことから少人数のグループ化が進み新会員が入りにくいのでは？ ・少人数のため親密な関係を保ちやすい反面、対人関係の広がりや集団力動的な訓練効果が得にくい ・同じ庁舎内でこころの健康センターでもDC実施 保健所のDCの意義目的を再検討の必要性
松 阪	H元年10月 8～10人	・保健婦 2名 ・予防課担当 1名 ・栄養士 ・所内職員 ・ボランティア	・DCメンバーと松阪工作所のメンバーが重なっている 保健所DCの独自性と役割 ・開催回数を増やす ・開催スタイルの考慮 ・新メンバーが定着しにくい ・男性が多く女性が参加しにくい ・レベルの違い プログラムの考慮 ・評価会の充実

松 阪	H元年10月 8～10人		<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーの家族とのかかわり</li> <li>・DC初参加時、メンバー、家族との面接、目標の確認、評価の機会をもちたい</li> </ul>
伊 勢	H元年10月 4～9人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦 2名</li> <li>・予防課 1～2名</li> <li>・栄養士 随時</li> <li>・精神科医 随時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各関係機関とDCとのかかわり</li> <li>・個別的フォローのありかた</li> <li>・DC担当保健婦と地区担当保健婦との連携について</li> <li>・保健所間でのケースを通しての情報交換、連携について</li> <li>・プログラムの構成について</li> </ul>
志 摩	H6年12月 20人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦</li> <li>・予防課</li> <li>・ボランティア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーが多すぎる 個々に対するアセスメント不足</li> <li>・SST導入</li> <li>*DCの他に 作業…週 × 2回（保健所内で）</li> </ul>
上 野	S56年4月 (会員数は30名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦</li> <li>・予防課担当</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員に世代間のギャップ 40年代の会員減少</li> <li>・プログラムのマンネリ化</li> <li>・交通の便が悪いため野外活動に苦勞</li> <li>・作業所が開設されたため保健所DCの役割再検討</li> <li>・会員の目標設定。達成度の評価</li> <li>・長期欠席者への通知発送を止めるタイミング</li> <li>・保険加入について</li> </ul>
尾 鷲	H4年10月 5～10人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦 2名</li> <li>・予防課担当 2名</li> <li>・ボランティア</li> <li>・精神科医（会員の主治医） 随意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数が増やせない スタッフの稼働量 専用の部屋がない</li> <li>・会員だけで自由に集まれる場の開設</li> <li>・DC担当保健婦と地区担当保健婦との情報交換を十分に</li> <li>・会員家族へのアプローチ</li> <li>・会員が生活する地域への関わり</li> <li>・ボランティア参加の体制づくり</li> </ul>
熊 野	H7年4月 3～9人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦</li> <li>・予防課担当</li> <li>・栄養士</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年令差、障害の差、能力差等でプログラムが難しい</li> <li>・プログラムはレクリエーション的な傾向が強い</li> <li>・他の保健所のDCに参加にしたい</li> <li>・今のところは楽しんで参加出来る事を重点に</li> </ul>

＜第2回＞

- ① 日 時 平成9年3月18日(火)
- ② 参加者 18名
- ③ 内 容 実施要領に基づく
- ④ まとめ 最近の国の動き、医療デイケアと保健所デイケアとの違い、又保健所デイケアの果たす役割を具体的に聞くことができた。  
保健所デイケアは、成熟期に入り、客観的に整理する必要もあるとのことで、運営目的などについて確認できた会議であった。

3) 思春期講座

思春期は子どもから大人への過渡期であるといわれ、過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生ずる。殊に現代社会のような社会変動が著しい状況においては、思春期が不安定さを特徴とするがゆえにさまざまな心の問題が生じやすくなる。

登校拒否、家庭内暴力、非行など、思春期の心の問題が具体的な行動上の問題となって現れ、マスキを始めとし社会的な関心が高まっている。

また、拒食症、心身症なども増加の傾向にある。

よく知られているように社会変動は文化的経済的な急激な変化だけでなく社会の基盤にある構造そのものも変わりつつある。このような時代的な流れの中で、家族の役割も不安定なものにならざるを得ない。

思春期の不安定さを安定化させる役割が家族の中にあると考えた時、家族の役割が不安定になることは、思春期の心の健康を考えていくうえで、重大な危惧を生ずる。

このような視点から今回の思春期講座は、この時期の子供をもつ家族を対象に、5回の連続講座をもち、各分野の立場から「思春期とは」の講義と話し合いをもった。その中で思春期における心の問題と家族の役割を見直すこととした。

(ア) 思春期講座の概要

平成8年度思春期講座実施要領

1. 目 的

思春期は人間の一生の中でも身体的、社会的、心理的にも変動の著しい時期で、この時期は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりやすい。時には、不登校、家庭内暴力、心身症などの思春期における心の問題が生じる。

この講座では、思春期の子どもをもつ家族に対して「思春期とは」の理解を深め、この時期の子どもを支えるための知識・理解を深める。

2. 実施主体 三重県こころの健康センター

3. 期 間 平成8年11月14日～平成9年3月13日

毎月1回(第2木曜日) 午後1時30分～午後3時30分

4. 場 所 三重県こころの健康センター

5. 対 象 者 思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方

6. 内 容 講義 グループワーク

7. 定 員 20名

8. 受 講 料 無料

9. 案 内 別紙

10. 申込方法および期日

別紙申込書により、三重県こころの健康センターへ申し込む

締切り 10月25日(但し定員になり次第締切る)

11. 中 込 先

〒514-11 久居市明神町2501-1 三重県こころの健康センター

☎ 059-255-2151

## 思 春 期 講 座 の ご 案 内

思春期は人間の一生の中でも、身体的、社会的、心理的にも変動の著しい時期です。この時期の子ども達は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりがちです。時には、不登校、家庭内暴力、そして心身症などの思春期における心の問題が生じます。

今回、この講座は、思春期における心の問題や疑問を解決していくための勉強や話し合いなどを通じてこれらの青少年に対するよき理解者としての家族を目指していくものです。

### 記

1. 日 時 平成8年11月14日(木)～平成9年3月13日(木)  
毎月第2木曜日(午後1時30分～3時30分)
2. 場 所 三重県こころの健康センター
3. 内 容 下記のプログラムをご覧ください
4. 対象人員 思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方 20名
5. 申し込み 申込書に必要事項をご記入の上、申込先までお送りください。  
締切り10月25日 定員に達し次第締め切らせていただきます。
6. 受講料 無料
7. 申込先およびお問い合わせは  
久居市明神町2501-1 三重県久居庁舎1階  
三重県こころの健康センター TEL. 059-255-2151

### 平成8年度 思春期講座プログラム

期 日	内 容 お よ び 講 師
平成8年 11月14日	思春期の心と身体 宝積クリニック院長 宝 積 己 矩 子
12月12日	思春期と学校 県立津東高等学校教諭 藤 牧 恵
平成9年 1月9日	思春期と家族 県立小児心療センターあすなろ学園室長 久 保 義 和
2月13日	グループワーク 思春期の体験を通して子どもを理解する こころの健康センター 主幹(臨床心理士) 久 保 早 百 合
3月13日	グループワーク 子どもの自立をめぐる こころの健康センター 主幹(臨床心理士) 久 保 早 百 合

## (イ) 思春期講座の経過

参加者は、27名であった。地域を保健所管内別にみていくと、津が9名と多く、次で久居5名、上野、松阪、四日市が各3名、伊勢2名、桑名、鈴鹿が各1名の参加になっている。子どもが示す内容も、不登校、家庭内暴力、情緒不安定などの適応障害にとどまらず、分裂病の初期症状と思われる精神病態まで、幅広い範囲のものを含んでいた。

また、思春期OB会からの参加者も14名あった。毎月の月例会に加えて講座への参加は、思春期の子ども達への理解をより深めていこうとする親の想いが強く感じられた。

### 第1回

宝積クリニックの宝積院長が、「思春期の心と身体」について、思春期とライフサイクル、思春期の特徴、身体の変化にたいする心理的反応、クリニックで出会う思春期の身体症状等の内容の話がされた。

思春期の子どもは、身体の変化を多少不安でも大人になっていく自分を受け入れていくが、なかには、身体の変化を認めまいとする子ども達がいる。そのような子どもの身体やその変化への意味づけについて話がされた。

### 第2回

県立津東高等学校の教育相談を担当されている藤牧先生は、「学校はどうなっているのか」、不登校の子ども達に対して学校としてどう対応すればよいのかなど、具体的に事例をとおしてとりあげられた。学校現場における努力を現場の先生の視点から話された。

またスクールカウンセラーと教育相談の役割を担う教諭との連携により、よい結果を生んだ事例についても話された。

### 第3回

県立小児心療センターあすなる学園の久保室長は、現代の青年達の具体的な姿をとりあげ、そこにある基本的なあり方を話された。

殊に、従来日本人が自然にできていた「間」のとり方のまずさをとりあげ、その背後にある子どもと親の力関係の変化をスライドを使って話された。その中で大人の側の自信のなさが子育てまで影響すること。また、現代青年のもつ“もろさ”に注意をむけることが必要であると話された。

### 第4回

サイコドラマの形式で、ロールプレイングを通して、思春期の子ども達の心の動きを理解する試みを行った。参加者の方々自身が思春期の時代を回想させられることになり、楽しい気持ちになった方もみえれば、葛藤的な気持ちになった方もあったようである。いづれにしても、それぞ

れの参加者の方が、思春期の気持ちを体験したことについて、今後、子ども達の心の理解の為に役立つという、好意的な評価であった。

## 第5回

参加者を2グループに分けて、それぞれ自由に討議の場をもった。親として、この時期の子どもにどう対応すればよいかなど、思春期の子どもの問題について、積極的に考えようとする姿勢がうかがわれた。このように親が自ら考えようとする姿勢がでてきたことは、この講座の意図する、親自身が問題を考え、親自身の姿勢を自ら考えるという目的の出発点であると思われる。また修了後月1回開かれている、思春期OB会への参加希望者はほとんどであった。

### (ウ) 思春期OB会

思春期講座の参加者の中から、有志が中心となりOB会が結成され、3年が経過した。親自身が思春期講座修了後、自分達の姿勢を変えていく必要を感じ、それを具体的に行っていこうとする親の熱意が感じられる。現在、毎月1回定例会をもっているが、当初6～8名の参加者であったが、今では毎回10～11名と増えている。この会では、思春期の子どもに対して、どのような対応をしていけばよいのか、またできるのかを会員相互に具体的に相談しあっている。また、地域で同じような悩みをもつ親に対してよき相談相手となっている会員も増えつつある。このように体験に基づいた話し合いは、会員相互の理解を深め、また具体的な対応を導きだすものとなっている。今年度は、このような話し合いの外、立場をかえて学びたいということから河合塾相談室カウンセラー、スクールカウンセラーである臨床心理士の鈴木誠先生に「悩める子どもたちと共にいて」というテーマで話をしてもらい、具体的な相談も受けた。この機会に、それぞれの会員が、思春期の子どもをもち悩んでいる親を誘うなど会の輪が広がり、大変好評であった。また時には陶芸など、親のリフレッシュの場もつくっているが、これらのことが、会員相互のより強い親密感を築き、OB会の発展の「礎」となっているように思われる。



## 6. 精神保健相談

精神保健相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレフォン相談」（電話相談）に分けられる。

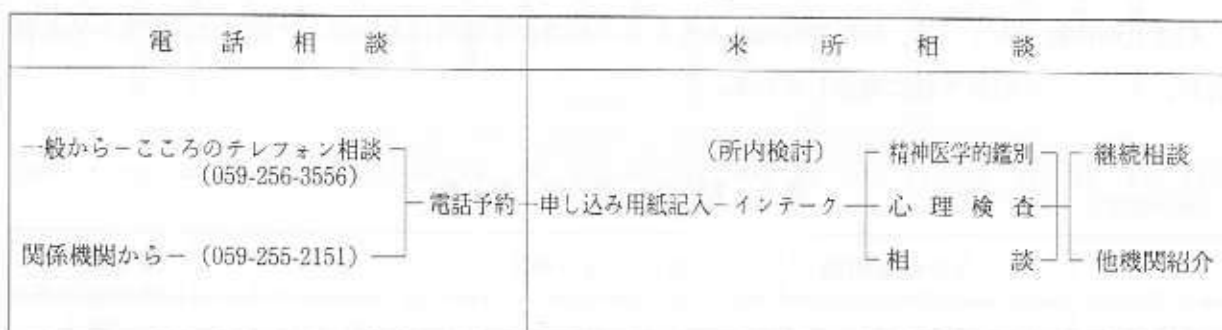
「こころの健康相談」は、思春期・老年期・酒害・ダイエット SOS のような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし相談者数の急増にともなって他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。平成8年度の相談員は、医師2名（所長、精神科医1名）、保健婦（精神保健相談員）2名、精神ソーシャルワーカー1名、心理技術者1名の計6名である。

「こころのテレフォン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後4時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）2名があたっている。

また、時間外については、留守録を利用し、必要な場合には、翌日センターから連絡をとる体制にしている。

相談の流れは、図1に示してある。この基本的な考え方は所内でそれぞれの専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図1 相談の流れ



平成8年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数は、表1のとおりで、前年度と比べると、来所相談が89%、電話相談が117%で、電話相談が、総件数、新規件数共に、著しく増加している。全体の相談件数は110%で増加となっている。

最近5年間の年度別相談件数の推移は表2のとおりである。電話相談の増加は著しいが、来所相談に関しては、他事業との関係で日程の調整がつかない場合もあり、やや減少している。

表1 平成8年度 相談件数

		件 数	構 成 比
こころの健康相談		955 ( 91)	21.7
こころのテレフォン相談		3,448 (675)	78.3
再 掲	思 春 期	395 (164)	9.0
	老 年 期	209 ( 56)	4.7
	酒 害	13 ( 13)	0.3
計		4,403 (766)	100.0

( ) 内は新規件数再掲

表2 精神保健相談件数（年度別）

		平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度
こころの健康相談 （来所相談）		903 (115)	1,139 (109)	1,344 (104)	1,073 (96)	955 (91)
こころのテレフォン相談		3,013 (474)	2,593 (363)	2,472 (361)	2,946 (488)	3,448 (675)
再 掲	思 春 期	580 (170)	497 (136)	279 (133)	345 (140)	395 (164)
	老 年 期	64 (40)	46 (18)	134 (33)	199 (34)	209 (56)
	酒 害	4 (4)	6 (6)	1 (1)	5 (5)	13 (13)
計		3,916 (589)	3,732 (472)	3,816 (465)	4,019 (584)	4,403 (766)

（ ）内は新規件数再掲

相談者別件数（表3）は、前年度同様、本人からの相談が圧倒的に多いが、今年度は、家族からの割合が、テレフォン相談で特に増加している。

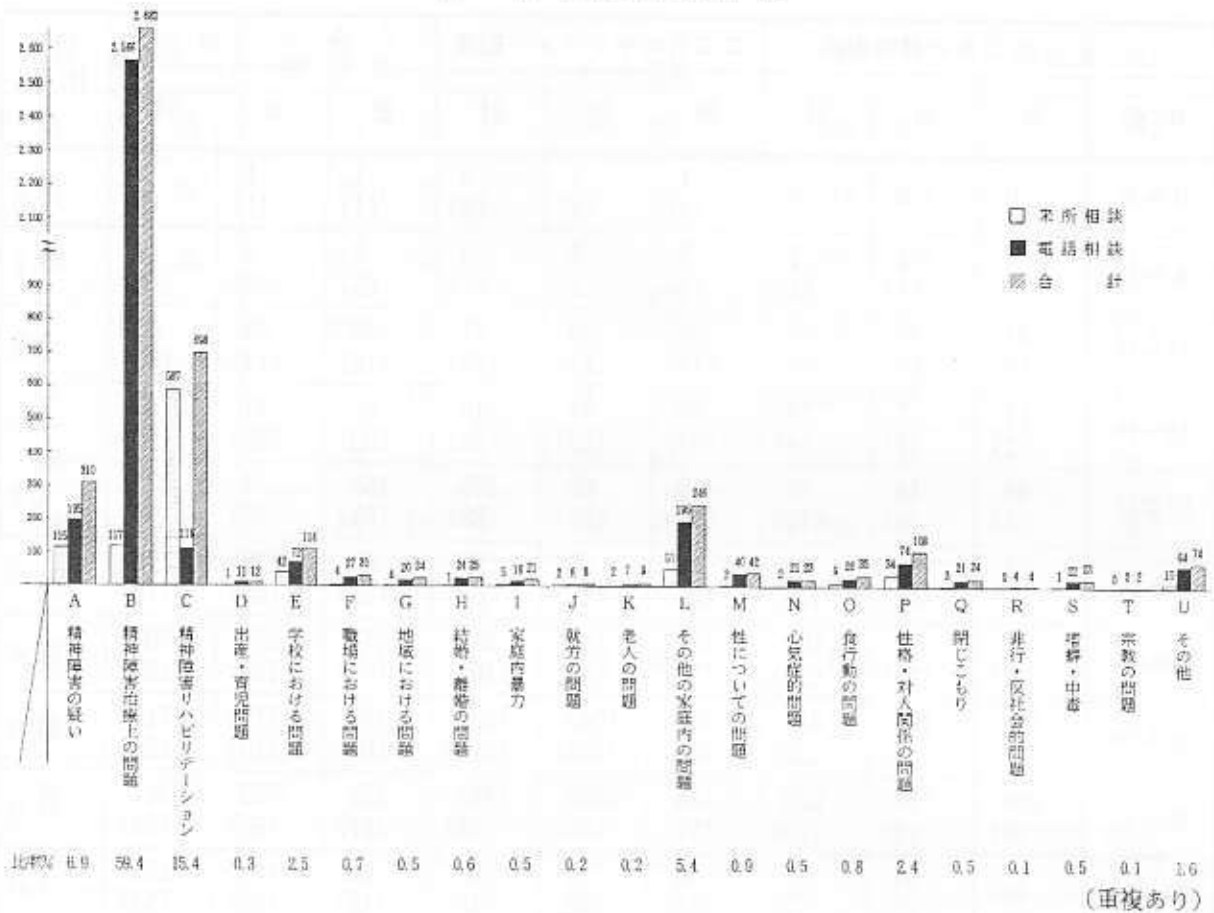
表3 相談者別件数

	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比%
本 人	850 (55)	2,987 (390)	3,837 (445)	87.1
家 族	91 (32)	402 (246)	493 (278)	11.2
そ の 他	14 (4)	59 (39)	73 (43)	1.7
計	955 (91)	3,448 (675)	4,403 (766)	100.0

（ ）内は新規件数再掲

相談内容別件数は、図2に示してある。内容を大きく分けると、精神障害に関したもの（精神障害の疑い、精神障害治療上の問題、精神障害リハビリテーション）と適応障害（図D～U）に分けることができる。精神障害に関したものは、全体の81.7%と昨年同様高くなっており、中でも、精神障害治療上の問題が、59.4%で半数以上を占め、昨年より更に高い割合となっている。

図2 相談内容別件数



適応障害の方をみると、E、H、I、J、K、Lを含めた家庭内の問題が7.2%、適応障害の中では、39.3%を占め、最も多くを占めている。次が学校における問題で2.5%で昨年よりやや増加、次が、性格・対人関係の問題で2.4%となっている。

表4 年代別、性別 相談件数

年 齢	こころの健康相談			こころのテレフォン相談			合 計			比 率
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
0～5	0	0	0	1 (1)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	0.0
6～12	0	1 (1)	1 (1)	7 (5)	2 (2)	9 (7)	7 (5)	3 (3)	10 (8)	0.2
13～15	31 (2)	6 (3)	37 (5)	28 (14)	23 (11)	51 (25)	59 (16)	29 (14)	88 (30)	2.0
16～18	12 (2)	7 (2)	19 (4)	79 (31)	34 (23)	113 (54)	91 (33)	41 (25)	132 (58)	3.0
児童計	43 (4)	14 (6)	57 (10)	115 (51)	60 (37)	175 (88)	158 (55)	74 (43)	232 (98)	5.3
19～22	18 (5)	62 (5)	80 (10)	42 (26)	53 (40)	95 (66)	60 (31)	115 (45)	175 (76)	4.0
23～29	87 (13)	74 (13)	161 (26)	184 (70)	164 (92)	348 (162)	271 (83)	238 (105)	509 (188)	11.6
30～39	148 (14)	169 (8)	317 (22)	351 (66)	1048 (105)	1399 (171)	499 (80)	1217 (113)	1716 (193)	39.0
40～49	200 (6)	25 (4)	225 (10)	134 (21)	1008 (63)	1142 (84)	334 (27)	1033 (67)	1367 (94)	31.0
50～59	34	44 (7)	78 (7)	26 (18)	74 (28)	100 (46)	60 (18)	118 (35)	178 (53)	4.0
60～64	4 (1)	12 (2)	16 (2)	10 (7)	115 (13)	125 (20)	14 (8)	127 (14)	141 (22)	3.2
65～69	1	15	16	8 (5)	16 (7)	24 (12)	9 (5)	31 (7)	40 (12)	0.9
70～	3 (2)	2 (2)	5 (4)	7 (6)	16 (12)	23 (18)	10 (8)	18 (14)	28 (22)	0.6
成人計	495 (41)	403 (40)	898 (81)	762 (219)	2494 (360)	3256 (579)	1257 (260)	2897 (400)	4154 (660)	94.3
不 明				6 (4)	11 (4)	17 (8)	6 (4)	11 (4)	17 (8)	0.4
合 計	538 (45)	417 (46)	955 (91)	883 (274)	2565 (401)	3448 (675)	1421 (319)	2982 (447)	4403 (766)	100

( ) 内は新規件数再掲

次に、年代別、性別相談件数（表4）をみると、年代別には来所相談・テレフォン相談ともに30代が最も多く、次が40代であり、30代、40代で、70%を占める。性別には、来所相談は、男性の方が多いが、年代によっては逆転する。

テレフォン相談は、例年通り、女性が圧倒的に多く、男性の2.9倍となっている。30代、40代、60代で特に女性が多い。これは、電話常習者が数名いるため特に多くなっている。新規件数で比較しても女性が1.5倍になっている。但し、児童では、男性が多くなっている。

表5 保健所管内相談件数

保健所	こころの健康相談	こころの テレフォン相談	計	構成比(%)
桑名	3(2)	140(65)	143(67)	3.2
四日市	37(7)	177(86)	214(93)	4.9
鈴鹿	168(15)	912(92)	1,080(107)	24.5
津	282(19)	466(119)	748(138)	17.0
久居	277(18)	217(78)	494(96)	11.2
松阪	103(9)	1,220(63)	1,323(72)	30.0
伊勢	61(12)	144(61)	205(73)	4.7
志摩	5(2)	29(22)	34(24)	0.8
上野	16(5)	70(41)	86(46)	2.0
尾鷲	—	22(8)	22(8)	0.5
熊野	—	7(7)	7(7)	0.2
県外	1(1)	31(24)	32(25)	0.7
不明	2(1)	13(9)	15(10)	0.3
計	955(91)	3,448(675)	4,403(766)	100.0

( )内は新規件数再掲

次に、保健所管内別相談件数(表5)をみると、来所相談では津・久居が多く、この2保健所管内で全体の58.5%を占める。次に鈴鹿・松阪と続く。志摩・桑名は少なく、今年度は尾鷲・熊野は0であり、地理的な要因が大きいと思われる。テレフォン相談は、松阪・鈴鹿が多く、この2保健所管内で全体の61.8%を占める。次に津・久居と続く。新規件数をみると、来所相談では、やはり地域差がみられるが、テレフォン相談では、尾鷲、熊野を除いては、地域差は少なくなっている。

<特定専門相談>

(ア) 思春期相談

表6 思春期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総 件 数	136 (100.0)	259 (100.0)	395 (100.0)
A 精神障害の疑い	48 (35.3)	37 (14.4)	85 (21.5)
B 精神障害治療上の問題	20 (14.7)	59 (23.0)	79 (20.0)
C 精神障害リハビリテーション	13 (9.5)	4 (1.6)	17 (4.3)
E 学校における問題	39 (28.7)	58 (22.6)	97 (24.5)
F 職場における問題		3 (1.2)	3 (0.8)
I 家庭内暴力	2 (1.5)	7 (2.7)	9 (2.3)
J 就職の問題		1 (0.4)	1 (0.2)
L その他の家庭内の問題	3 (2.2)	25 (9.7)	28 (7.1)
M 性についての問題		22 (8.6)	22 (5.6)
N 心気症的問題		3 (1.2)	3 (0.8)
O 食行動の問題	6 (4.4)	13 (5.0)	19 (4.8)
P 性格・対人関係の問題	5 (3.7)	12 (4.7)	17 (4.3)
R 非行・反社会的問題		2 (0.8)	2 (0.5)
S 嗜癖・中毒		5 (1.9)	5 (1.3)
U そ の 他		8 (3.1)	8 (2.0)

思春期は、中学生から大学卒業までの年齢（13才～22才）を考えている。表6に思春期の相談内容別件数を示した。

来所相談は、136件あり、来所相談全件数の14.2%であり、内容別にみると、精神障害の疑いが最も多く、48件で、来所相談の精神障害の疑いの全件数の41.7%を占めている。次に学校における問題、精神障害治療上の問題と続いている。

テレフォン相談は、259件でテレフォン相談全件数の7.5%であり、総件数の増加に伴い件数は増加しているが、全体に占める割合は低下している。内容別にみると精神障害治療上の問題、学校における問題、精神障害の疑いと続くが、家庭内の問題、性についての問題も多くなっている。

(イ) 老年期の相談

表7 老年期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総 件 数	37 (100.0)	172 (100.0)	209 (100.0)
A 精神障害の疑い	15 (40.6)	23 (13.4)	38 (18.2)
B 精神障害治療上の問題	5 (13.5)	114 (66.2)	119 (56.9)
C 精神障害リハビリテーション		1 (0.6)	1 (0.5)
G 地域における問題	1 (2.7)	3 (1.7)	4 (1.9)
K 老人の問題	2 (5.4)	5 (2.9)	7 (3.3)
L その他の家庭内の問題	14 (37.8)	18 (10.5)	32 (15.3)
M 性についての問題		1 (0.6)	1 (0.5)
O 食行動の問題		1 (0.6)	1 (0.5)
P 性格・対人関係の問題		1 (0.6)	1 (0.5)
S 嗜癖・中毒		1 (0.6)	1 (0.5)
U そ の 他		4 (2.3)	4 (1.9)

60才以上の老年期の相談は、今年度は209件であり、全件数の4.7%であり、件数としては、増加してきているが、全体に占める割合は、やや低下している。内容別件数は、表7に示してあるように、来所相談では、精神障害の疑い、その他の家庭内の問題が多く、テレフォン相談では、精神障害治療上の問題が多く、次に精神障害の疑い、その他の家庭内の問題と続き、昨年と同様である。又、精神障害に関するものが75.6%と多い傾向は老年期に関しても同じようにみられる。

(ウ) 酒害相談

酒害相談の件数は、今年度は13件（来所相談1件、テレフォン相談12件）で昨年に比べると、2.6倍と増えているが、全件数の0.3%であり、酒害に関する相談はアルコール専門病棟をもつ県立病院が隣接市にあることや、各保健所で相談を行っていることにより、例年通り、当センターにもちこまれることは少ないと思われる。



## 7. 精神障害者福祉推進

- 1) 精神障害者就労相談
- 2) 精神障害者自立援助
- 3) 社会復帰関連施設支援

精神保健の施策は、昭和62年及び平成5年の法律改正により、精神障害者の人権に配慮した適正な精神医療の確保や、社会復帰の促進を図るため様々な措置が講じられ、平成5年12月に障害者基本法が成立し、障害者が基本法の対象として明確に位置付けられ、これまでの保健医療施策に加え、福祉施策の充実を図ることが求められることとなった。さらに、平成7年5月には精神障害者の福祉施策や地域精神保健施策の充実を図ること等を目的に「精神保健法」から「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に改称され、精神障害者の自立と社会参加のための援助という福祉の要素が位置付けられた。こうした状況を踏まえ、こころの健康センターでは、以下の3本を柱とし、精神障害者福祉推進事業を展開した。

#### 1) 精神障害者就労相談（就労準備教室）

目的は、精神障害者の就労を促進するための病状自己管理、社会適応に必要な生活技術の指導など就労準備訓練を行うことにより、生活上の諸問題と就労意欲を促進することとし、在宅の精神障害者でデイケア、作業所等に通所し、就労を希望している人を対象とした。

内容は、生活技能訓練と、就労前に必要な知識、マナー等の習得と動機づけを図るために、障害者職業センターの障害者職業カウンセラーとハローワーク精神障害者担当職業相談員に講師を依頼した。

参加者は、当事者18名、スタッフ3名の21名であった。

カウンセラーから生活習慣、健康管理、職場のマナー、協調性等、就労に際しての心構えについて、又職業相談員から今までの相談事例を通した話がなされた。

失敗例、成功例等、実話を基にした話で身近に感じられたこと、また僅かの時間であったが個別相談も行ってもらい、当事者から落ちついて話を聞いてもらえ良かったとの評価も得た。

今後、当事者たちの心理的状况を考える時、就労につなげる前段階として短時間のグループアルバイト等の体験の機会も必要と考えられる。

## 2) 精神障害者自立援助

平成7年度にこころの健康づくり推進連絡会議で県内のデイケアや作業所等社会復帰施設の通所者を対象に「当事者交流会」を3回実施した。

今年度はこれを引き継ぐ形で、身近な者同士が定期的に集まれる当事者交流会を実施していくための支援をおこなった。

## 当事者交流会

### 1. 目的

精神障害者の自立と社会参加を目指した、精神保健および精神障害者福祉の総合的な社会復帰対策が始まっている状況の中で、各地で精神障害者自身が自ら福祉や保健・医療対策の向上に向けて様々な取り組みが始まっている。

地域の中でたくましく生活している仲間が交流する事により、精神障害者の自立と社会復帰、社会参加の促進を図る。

### 2. 交流会の内容

以前から、毎週金曜日は第1ダイルームをデイケアのメンバーに開放しており、少数のメンバーが利用していた。そこで、これを当事者交流会に発展させるため、デイケアメンバーに声をかけ実施するに至った。

参加時間、内容等全て当日参加したメンバーが決め実施しているが、主にカラオケ、将棋、雑談等をして過ごすことが多い。

実施回数および参加者数は、平成8年8月16日～平成9年3月末日まで32回、延べ162人(平均5.06人)であった。

### 3. 今後の課題

センターのデイケアメンバーだけを対象としているため参加者数が少ない。また、活動内容もマンネリ化しつつあるので、メンバーの拡大や活動内容について当事者に主体性を持たせながら検討をしていく必要がある。

### 3) 社会復帰関連施設支援

昭和59年に、県内初の小規模作業所が出来て以来、各地に社会復帰関連施設が出来てきている。平成8年度は、小規模作業所を中心に技術指導援助を目的に実施した。

年 月 日	対 象	参 加 人 員
8. 5. 14	すずわの家	8
8. 6. 5	工房T&T	9
8. 7. 11	工房T&T	17
8. 7. 19	松阪工作所	18
8. 8. 28	工房T&T	19
8. 12. 13	ふるさと工房	4
9. 1. 16	工房T&T	14
9. 2. 19	ワークルーム桑友	13

## (資料) 精神障害者共同 (小規模) 作業所

平成9年10月現在

番号	作業所名	所在地 電話番号	設置主体	定員	設立年月日
1	わかば作業所	四日市市西阿倉川1671-2 0593-31-6402	四日市地域家族会	20	S59.4.1
2	クラブハウスみのり	四日市市石塚町10-5 0593-51-4425	社会福祉法人 四季の里	20	S63.11.1
3	すずわの家	鈴鹿市寺家3丁目12-20 0593-86-9490	鈴鹿地域家族会	20	H2.4.1
4	松阪工作所	松阪市川井町2633 0598-21-3341	松阪地域家族会	18	H4.5.1
5	ふるさと工房	伊勢市一之木1-11-3 0596-28-7314	伊勢地域家族会	10	H4.6.1
6	工房T&T	津市寿町13-10 059-224-8932	津地域家族会	15	H5.7.1
7	いすず工房	津市城山3丁目5-2 059-234-8931	高茶屋病院家族会	17	H5.9.1
8	コミュニティハウス・オレゴン	四日市市栄町8-9 0593-52-1610	社会福祉法人 四季の里	10	H6.4.1
9	太陽工作所	上野市四十九町2106 0596-24-7897	伊賀地域家族会	20	H7.4.1
10	ワークルーム桑友	桑名市新築町67 0594-23-7189	桑名地域家族会	20	H7.4.1
11	かすみ園芸	津市安東町字茨2221	久居病院家族会 「のぞみ」	15	H9.4.1
12	陽だまり作業所	志都嬉野町須賀737 05984-2-1973	美土里福祉会	15	H9.4.1

### Ⅲ. こころの健康センター図書目録

### 三重県こころの健康センター図書目録

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤 喬一 訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤 学 共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋 薫 編	星和書店
4	アルコール症 (J. フォート著)	大森 正英 訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元 波留夫 著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井 孝幸 著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	児島 美都子 著	ミネルヴァ書房
8	岩波国語辞典	西尾 実 著	岩波書店
9	狼に育てられた子 (J. A. L. ジング著)	中野 善達 訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合 隼雄 著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合 隼雄 著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下 格 著	金剛出版
13	仮面デプレッションのすべて	筒井 末春 著	新興医学出版社
14	健康と福祉 (厚生行政百問百答)	厚生省 監修	厚生問題研究会
15	現代精神分析 1	小比木 啓吾 著	誠信書房
16	現代精神分析 2	小比木 啓吾 著	誠信書房
17	講座 家族精神医学 1	加藤 正明 共編	弘文堂
18	講座 家族精神医学 2	加藤 正明 共編	弘文堂
19	講座 家族精神医学 3	加藤 正明 共編	弘文堂
20	講座 家族精神医学 4	加藤 正明 共編	弘文堂
21	講座 日本の老人 1 老人の精神医学と心理学	金子 仁郎 共編	垣内出版
22	講座 日本の老人 2 老人の福祉と社会保障	岡村 重雄 共編	垣内出版
23	講座 日本の老人 3 老人と家族の社会学	那須 宗一 共編	垣内出版
24	行動と脳	今村 護郎 著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木 隆郎 監訳	ルガール社
26	自己と他者 (R. D. レイン著)	志貴 春彦 共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生省 監修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本 和雄 共著	日本文化科学社
29	児童の発達と行動	加藤 正明 共訳	医学書院

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫 著	医学書院
31	社会精神医学の実際 1	加藤伸勝 編	医学書院
32	社会精神医学の実際 2	佐藤亮三 編	医学書院
33	社会精神医学の実際 3	逸見武光 編	医学書院
34	社会精神医学の実際 4	加藤伸勝 編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義 編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ 6 小児のMBD	上村菊朗 共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ 7 登校拒否症	若林貞一郎 著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ 8 小児のてんかん	福山幸夫 著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ 13 小児の糖尿病	田中美郷 著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ 14 自閉症	村田豊久 著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ 15 小児の心身症	河野友信 著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ 20 夜尿症	三好邦雄 著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋 共編	医学書院
44	事例検討と看護実践	外口玉子 編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子 編	バオバブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法（法令、通知、資料）	厚生省 監修	中央法規出版
48	心理療法の実際	河合隼雄 編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司 著	医学書院
50	睡眠障害	上田英雄 編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良 共著	新興医学出版社
52	ステッドマン医学大辞典		メディカルビュー
53	増補版 精神医学辞典	加藤正明 共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭 編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫 著	医学書院
56	精神医療の実際	菱山珠夫 共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮澄夫 共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫 共編	医学書院
59	精神衛生のための100か条	中沢正夫 著	創造出版



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	吉川武彦著	医学図書出版
63	精神科のハーフウェイハウス	加藤正明著	星和書店
64	精神科 MOOK 3 覚せい剤・有機溶剤中毒	加藤伸勝著	金原出版
65	精神科 MOOK 4 境界例	保崎秀夫著	金原出版
66	精神科 MOOK 6 思春期の危機	下坂幸三著	金原出版
67	精神科 MOOK 8 老人期痴呆	長谷川和夫著	金原出版
68	精神疾患ケース・スタディ	森温理著	医学書院
69	精神疾患と心理学	神谷美恵子著	みすず書房
70	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
71	精神障害者のディケア	加藤正明共編	医学書院
72	精神分析用語辞典	村上仁監訳	みすず書房
73	精神分析セミナー I 精神療法の基礎	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー II 精神分析の治療機序	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー III フロイトの治療技法論	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー V 発達とライフサイクルの視点	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂矢英彦著	金剛出版
78	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	金剛出版
79	側頭葉てんかん	宇野正威著	星和書店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
81	てんかん診療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
82	断酒学	村田忠良著	星和書店
83	地域精神衛生の理論と実際	加藤正明監修	医学書院
84	日本の中高年 1 (上) 中高年健康管理学	旗野脩一編	垣内出版
85	日本の中高年 1 (下) 中高年健康管理学	旗野脩一編	垣内出版
86	日本の中高年 2 中高年女性学	旗野脩一編	垣内出版
87	日本の中高年 3 収穫の世代	袖井孝子編	垣内出版
88	日本の中高年 4 老人のプロセスと精神障害	戸川行男共編	垣内出版
89	日本の中高年 5 中高年にみる生活危機	本村汎共編	垣内出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
90	日本の中老年 6 病める老人を地域でみる	前田 信雄 著	垣内出版
91	ニュー セックス セラピー	野末 源一 訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上 英二 編	講談社
93	方法としての事例検討	外口 玉子 著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上 和雄 共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木 浩二 訳	誠信書房
96	ポウルピィ母子関係入門	作田 勉 訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村 恒郎 著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原 健志郎 編	中央法規出版
99	森田正馬全集 1	森田 正馬 著	白揚社
100	森田正馬全集 2	森田 正馬 著	白揚社
101	森田正馬全集 3	森田 正馬 著	白揚社
102	ユキの日記	笠原 嘉 編	みすず書房
103	病むということ	江畑 啓介 訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川 中 共訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中 淑彦 共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口 玉子 編	バオバブ社
107	臨床てんかん学	和田 豊治 著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川 和夫 共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田 晋 著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎 俊久 編	医学書院
111	老人ぼけの理解と援助	三宅 貴夫 編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏 君士 著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川 和夫 著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤 伸勝 監訳	医学書院

## 63年度以降購入分

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	現代精神医学大系 1 A 精神医学総論 I		中山書店
2	現代精神医学大系 1 B 1 a 精神医学総論 II a 1		中山書店
3	現代精神医学大系 1 B 1 b 精神医学総論 II a 2		中山書店
4	現代精神医学大系 1 B 2 精神医学総論 II b		中山書店
5	現代精神医学大系 1 C 精神医学総論 III		中山書店
6	現代精神医学大系 2 A 精神疾患の成因 I		中山書店
7	現代精神医学大系 2 B 精神疾患の成因 II		中山書店
8	現代精神医学大系 2 C 精神疾患の成因 III		中山書店
9	現代精神医学大系 3 A 精神症状学 I		中山書店
10	現代精神医学大系 3 B 精神症状学 II		中山書店
11	現代精神医学大系 4 A 1 精神科診断学 I a		中山書店
12	現代精神医学大系 4 A 2 精神科診断学 I b		中山書店
13	現代精神医学大系 4 B 精神科診断学 II		中山書店
14	現代精神医学大系 5 A 精神科治療学 I		中山書店
15	現代精神医学大系 5 B 精神科治療学 II		中山書店
16	現代精神医学大系 5 C 精神科治療学 III		中山書店
17	現代精神医学大系 6 A 精神症と心因反応 I		中山書店
18	現代精神医学大系 6 B 精神症と心因反応 II		中山書店
19	現代精神医学大系 8 人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系 9 A 躁うつ病 I		中山書店
21	現代精神医学大系 9 B 躁うつ病 II		中山書店
22	現代精神医学大系 10 A 1 精神分裂病 I a		中山書店
23	現代精神医学大系 10 A 2 精神分裂病 I b		中山書店
24	現代精神医学大系 10 B 精神分裂病 II		中山書店
25	現代精神医学大系 12 境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系 15 A 薬物依存と中毒 I		中山書店
27	現代精神医学大系 15 B 薬物依存と中毒 II		中山書店
28	現代精神医学大系 18 老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系 23 A 社会精神医学と精神衛生 I		中山書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
30	現代精神医学大系 23B 社会精神医学と精神衛生Ⅱ		中山書店
31	現代精神医学大系 23C 社会精神医学と精神衛生Ⅲ		中山書店
32	現代精神医学大系 24 司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系 25 文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門(正統)	懸田克躬・高橋義孝訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小比木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小比木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小比木啓吾訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・思想篇Ⅰ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・思想篇Ⅱ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレベリンの精神医学1巻 精神分裂病	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
47	クレベリンの精神医学2巻 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
48	クレベリンの精神医学3巻 心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理 1	笠原嘉編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理 2	宮本忠雄編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理 3	飯川貞編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理 4	木村敏編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理 5	笠原嘉編	弘文堂
56	精神遅滞児(者)の医療・教育・福祉	櫻井芳郎他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1. 子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3. 発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7. 発達の保障と教育		岩波書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
60	分裂病の精神病理 4	萩野恒一編	東京大学出版会
61	青年の精神病理 1	笠原嘉・清水将之・伊藤克彦編	弘文堂
62	青年の精神病理 2	小比木啓吾編	弘文堂
63	青年の精神病理 3	清水将之・村上靖彦編	弘文堂
64	講座 生活ストレスを考える 1. 生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣内出版
65	講座 生活ストレスを考える 2. 生活環境とストレス	山本和郎編	垣内出版
66	講座 生活ストレスを考える 3. 家族生活とストレス	石原邦雄編	垣内出版
67	講座 生活ストレスを考える 4. 職場集団にみるストレス	坂本弘編	垣内出版
68	講座 生活ストレスを考える 5. 学校社会のストレス	安藤延男編	垣内出版
69	メラニーライン著作集1. 子どもの心的発達	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
70	メラニーライン著作集3. 愛、罰そして償い	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
71	メラニーライン著作集4. 妄想的・分裂的世界	責任編訳・小比木啓吾・岩崎徹他	誠信書房
72	メラニーライン著作集6. 児童分析の記録I	山上千鶴子訳	誠信書房
73	アルコール薬物依存	大原健士・田所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見 上	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
75	無意識の発見 下	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
76	新しい子ども学 3巻 1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
77	新しい子ども学 3巻 2育てる	〃	〃
78	新しい子ども学 3巻 3子どもとは	〃	〃
79	アンナ・フロイド著作集 1 児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイド著作集 2 自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイド著作集 3 家庭なき幼児たち・上	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイド著作集 4 家庭なき幼児たち・下	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイド著作集 5 児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイド著作集 6 児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイド著作集 7 ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイド著作集 8 ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイド著作集 9 児童期の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイド著作集 10 児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻律子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学 2 パーソナリティ		岩波書店



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
90	異常心理学講座 4 巻 1 学派と方法	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
91	異常心理学講座 3 人間の生涯と心理	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座 4 神経症と精神病 1	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座 5 神経症と精神病 2	土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集 1 精神病理学研究	井村恒郎 著	みすず書房
95	井村恒郎著作集 2 脳病理学・神経症	〃	みすず書房
96	井村恒郎著作集 3 分裂病・家族の研究	〃	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・梶弘 監修	ヘスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎 著	金剛出版
99	叢書・精神の科学 1 巻精神の幾何学	安永浩 著	岩波書店
100	叢書・精神の科学 2 巻シンファンの病い	小出浩之 著	岩波書店
101	叢書・精神の科学 4 治療の場からみた分裂病	坂本暢典 著	岩波書店
102	叢書・精神の科学 5 正気の発見	内沼幸雄 著	岩波書店
103	叢書・精神の科学 6 心身症と心身医学	成田善弘 著	岩波書店
104	叢書・精神の科学 7 意識障害の人間学	河合逸雄 著	岩波書店
105	叢書・精神の科学 8 境界事象と精神医学	鈴木茂 著	岩波書店
106	叢書・精神の科学 10 精神と身体	遠藤みどり 著	岩波書店
107	叢書・精神の科学 11 脳と言語	野上芳美 著	岩波書店
108	叢書・精神の科学 12 貧困の精神病理	大平健 著	岩波書店
109	叢書・精神の科学 13 「非行」が語る親子関係	佐々木譲・石附敦 著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田克躬 編	みすず書房
111	人間性心理学への道（現象学からの提言）	村上英治 編	誠信書房
112	生きること かかわること	村上英治 監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論（フェッバーン著）	山口泰司 訳	文化書房博文社
114	臨床的对象関係論（フェッバーン著）	山口泰司・原田千恵子 訳	文化書房博文社
115	性的例錯（メダルト・ボス著）	村上仁・吉川和夫 訳	みすず書房
116	性の逸脱（ストー著）	山口泰司 訳	理想社
117	子どもの治療相談①適応障害・学業不振・神経症	ウイニェット著・橋本雅雄 翻訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談②反社会的傾向・盗みと愛情剥奪	ウイニェット著・橋本雅雄 翻訳	岩崎学術出版社
119	摘画による心の診断	岩井寛 著	日本文化科学社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
120	家族療法 (ジェイ・ヘイリイ著)	佐藤悦子訳	川島書店
121	夫婦家族療法I (Dグリック D・Rケスラー著)	鈴木浩二訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子著	医学書院
123	心理面接の技術	前田重治著	慶応通信
124	コミュニティ心理学	山本和郎著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巖・荒井元傳編	ミネルウェア書房
126	日常性の精神医学 (ヴァン・デン・ベルグ著)	早坂泰次郎・矢崎好子訳	川島書店
127	表情病	阿部正著	誠信書房
128	現代精神医学の概念 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
129	精神医学的面接 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
130	発想の軌跡	神田橋 條 治	岩崎学術出版社
131	身体心理学 (P・シルダー著)	稲永和豊監修	星和書店
132	岩波 心理学小辞典	宮城音弥編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭大著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健課監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでも精神科治療	小池清廉著	ルガール社
141	日本人の深層分析1 母親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
142	日本人の深層分析2 父親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
143	日本人の深層分析3 エロスの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
144	日本人の深層分析4 攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
145	日本人の深層分析5 夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
146	日本人の深層分析6 創造性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
147	日本人の深層分析7 病める心の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
148	日本人の深層分析9 子どもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
149	日本人の深層分析10 青年期の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
150	日本人の深層分析11 老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
151	思春期の対象関係論	牛島定信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室伏君士	金剛出版
153	薬物依存	加藤雄司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼田源四郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室伏君士編	金剛出版
156	E.ミンコフスキー 生きられる時間 1	中江育生・清水誠 訳	みすず書房
157	E.ミンコフスキー 生きられる時間 2	中江育生・清水誠・大橋博司訳	みすず書房
158	E.ミンコフスキー 精神分裂病	村上仁 訳	みすず書房
159	異常心理学講座 第9巻	辻健郎・笠原道・宮本忠雄・木村敬重他編集	みすず書房
160	E.クレベリン <精神医学>2 踱うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修 加藤伸勝	医学書院
165	P.S.Powers, R.C.Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R.K.コーニン編 ハンドブックグループワーク	馬場禮子 監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西園呂久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小林司 編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛 訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会発売:星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎監修	日本集団精神療法学会発売:星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・式場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー 裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D.W.ウィニコット 子どもと家庭	牛島定信 監訳	誠信書房
174	医心理学	原田憲一・小片寛・湯沢千尋・興信大	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋元波留夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷隆子 編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルサイエンス インターナショナル
178	生活と福祉 別冊事例集 アルコール依存症 および精神障害特集		全国社会福祉協議会



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
179	バトグラフィ双書3 宮沢賢治	福島章	金剛出版
180	バトグラフィ双書6 ドフトエフスキー	荻野恒一	〃
181	バトグラフィ双書8 ヘミングウェイ	伊藤高麗夫	〃
182	バトグラフィ双書9 志賀直哉	鹿野達男	〃
183	バトグラフィ双書10 川端康成	稲村博	〃
184	バトグラフィ双書12 高村光太郎	町沢静夫	〃
185	精神科MOOK 2 家族精神医学	編集企画 西園昌久	金原出版
186	〃 5 アルコール関連障害	〃 加藤正明	〃
187	〃 9 精神分裂病の治療と予後	〃 山下格	〃
188	〃 11 身体疾患と精神障害	〃 原田憲一	〃
189	〃 12 対人恐怖症	〃 高橋徹	〃
190	〃 13 躁うつ病の治療と予後	〃 更井啓介	〃
191	〃 14 青少年の社会病理	〃 藤原豪	〃
192	〃 15 精神療法の実際	〃 吉松和哉	〃
193	〃 16 自殺	〃 春原千秋	〃
194	〃 17 法と精神医療	〃 逸見武光	〃
195	〃 18 家庭と学校の精神衛生	〃 山田通夫	〃
196	〃 19 森田療法-理論と実際	〃 大原健士郎	〃
197	〃 20 精神科救急医療	〃 山崎敏雄	〃
198	〃 21 睡眠の病態	〃 菱川泰夫	〃
199	ヤスパース精神病理学研究	藤森英之訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎藤学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西園昌久	〃
202	非行の病理と治療	石川義博	〃
203	家庭内暴力	若林慎一郎・木城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆 編	〃
205	分裂病と構造	小出浩之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川孫一郎	〃
207	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E. ハガティ 著 分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃
208	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E. ハガティ 著 分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
209	精神分裂治療の展開	西 園 昌 久	金 剛 出 版
210	DSM-Ⅲ-R 精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤網昭	医 学 書 院
211	内因性精神病	吉 永 五 郎	医 学 書 院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・島弘嗣共訳	み ず ず 書 房
213	精神保健実践講座 ①精神保健の基礎理解	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	中央法規出版
214	” ②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南雲与志郎編	”
215	” ③精神保健とリハビリ テーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄編	”
216	” ④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基編	”
217	” ⑤地域精神保健活動 の理解と実際	加藤正明 監・村田信男・藤井克徳編	”
218	” ⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男編	”
219	” ⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	”
220	” ⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久編	”
221	” ⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松顔助・林幸男編	”
222	” ⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉編	”
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	”
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木昭	岩崎学術出版社
225	日本人の深層分析12 現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有 斐 閣
226	精神科MOOK 26 精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金 原 出 版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根 本 博 司 編 集	中 央 法 規
228	分裂病を生きる	安 斎 三 郎 編 著	日 本 評 論 社
229	臨床ケースワーク	武田建 荒川義子	川 島 書 店
230	臨床描画研究 I 描画テストの読み方	家 族 画 研 究 会 編	金 剛 出 版
231	臨床描画研究 II 家族画による診断と治療	”	金 剛 出 版
232	臨床描画研究 III 思春期、青年期の病理と描画	”	金 剛 出 版
233	臨床描画研究 IV 描画の臨床的活用	”	金 剛 出 版
234	臨床描画研究 V イメージと臨床	”	金 剛 出 版
235	臨床描画研究Annex1 家族イメージとその投影	”	金 剛 出 版
236	” 2 私の表現病理学	”	金 剛 出 版
237	” 3 描画を読むための理論背景	”	金 剛 出 版
238	治療構造論	岩 崎 徹 也	岩崎学術出版社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
239	精神障害者福祉	田村健二、坪上宏、浜田崇、岡上和雄	相川書房
240	過食の病理と治療	下坂幸三 編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である H. S. サリヴァン著	中井久夫、宮崎隆吉、高木敬三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出 J. レフ C. ヴォーン著	三野善央、牛島定信 訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子 監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一 監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際 I	大原健士郎、石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際 II	大原健士郎、石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開 ジョンヘイリー著	高石昇、横田恵子 訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	大野 裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	清水將之、北村陽英	星和書店
250	感情病および精神分裂病用面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山田義夫、小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2 登校拒否	鈴木浩二	金剛出版
253	方法としての面接	土居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望(青年期)	鎌幹八郎、山本力、宮下一博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男、松為信男、野中猛	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保紘章	川島書店
257	患者家族会のつくり方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保紘章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ G.R. バターソン	大淵憲一、春木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫、上田敏	医学書院
261	増補 精神発達と精神病理	北田敏之助、馬場謙一、下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田 眞	医学書院
264	医学モデルを超えて E. G. ミシュラー著	尾崎新、三宅由子、丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4 強迫神経症	遠藤みどり、稲浪正充	みすず書房
267	青年期 美と苦悩	大東祥孝、松本雅彦 新宮一成、山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談		財団法人日本公衆衛生協会

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
269	人と場をつなぐケア	外 口 玉 子	医学書院
270	精神分裂病研究の進歩	藤 縄 昭	星和書店
271	「家族」と治療する	石 川 元	未来社
272	初期分裂病	中 安 信 夫	星和書店
273	自己愛と境界例 J. F. マスターソン著	富山幸佑、尾崎新 訳	星和書店
274	入院集団精神療法	山口隆、小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術 L. S. グリックマン著	荒木志朗、柴田史朗、西浦研志 訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高 木 四 郎	慶応通信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木 時 雄	弘 文 堂
278	新版 精神衛生	小杉正太郎 編著	川島書店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明、精神衛生普及会 編	保健同人社
280	メンタルヘルス	加 藤 正 明	創 元 社
281	ライフサイクル精神医学	西 國 昌 久	医学書院
282	コーフト自己心理学セミナー 1 ミリアム・エルソン編	伊藤 洸 監訳	金剛出版
283	遊びリテーション	竹内孝仁、稲川利光 三好春樹、村上重紀	医学書院
284	青年期の精神科臨床	清 水 将 之	金剛出版
285	プロイラー精神医学総論	切 替 辰 哉	中央洋書出版
286	生涯発達学 R. M. ラーナー N. A. ブッシュ ロスナガール編	上 田 礼 子 訳	岩崎学術出版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一 編集 横浜いのちの電話 調査研究部 編	川島書店
288	地図は現地ではない	中 沢 正 夫	明 文 社
289	岩波講座 子どもの発達と教育4 幼年期発達段階と教育1		岩波書店
290	精神医学の臨床研究 サリヴァン	中井久夫、山口直彦、松川周吾 訳	みすず書房
291	治療のダイナミックス	森 俊 一、渡 辺 登	岩波書店
292	心理療法の諸原則 上 I. B. ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星和書店
293	心理療法の諸原則 下 I. B. ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星和書店
294	錯覚と脱錯覚	北 山 修	岩崎学術出版
295	サイコセラピー練習帳	丸 田 俊 彦	岩崎学術出版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博、林義子、斉藤友紀雄	新 曜 社
297	分裂病の精神病理 16	土 居 健 郎	東京大学出版社
298	森田式精神健康法	長谷川 洋 三	三 笠 書 房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
299	一般医のための森田療法	樋口正元	太陽出版
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本 収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信 著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優 訳	金剛出版
304	無意識1 無意識へのプロレゴメナ	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
305	無意識2 無意識と言語	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
306	無意識3 神経学と無意識	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
307	無意識4 無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
308	無意識5 無意識の社会学、哲学への影響	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
309	ある神経病者の回想録 ダニエル、パウル シュレーパー著	渡辺哲夫 訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小田 晋	思索社
311	分裂病と他者	木村 敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田 専	新潮選書
313	死に急ぐ子供たち シンシア、R. フェファー	高橋祥友 訳	中央洋書出版部
314	引き裂かれた子供たち	池田由子	弘文堂
315	妻が危ない	池田由子	〃
316	心理療法論考	河合 隼 雄	新曜社
317	老いのソウロロジー (魂学)	山中 康 裕	有斐閣
318	陽性陰性症状評価尺度	山田、増井、菊本 訳	星和書店
319	老人虐待	金子 善 彦	星和書店
320	正常な「老い」と異常な「老い」	清田 一 民	星和書店
321	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘、八木剛平	国際医書出版
322	十代の四季	上 田 基	ミネルヴァ書房
323	児童精神保健	島田照三 森田啓吾 横山桂子 著	ミネルヴァ書房
324	別冊発達⑩乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾 渡辺久子編	ミネルヴァ書房
325	老人福祉とは何か	一番ヶ瀬康子 十古林佐知子著	
326	高齢化社会と介護福祉	一番ヶ瀬康子 北川隆吉編 仲村優一	ミネルヴァ書房
327	現代人の精神異常	福田 哲 雄 著	ミネルヴァ書房
328	ゆれうごく家族	金田利子 杉浦	ミネルヴァ書房



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
329	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フォルクマン著	実務教育出版
330	逆転移1	ハロルド・F・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
331	外米精神医学から	笠原嘉	みすず書房
332	家族療法ケース研究④	牧原浩著	金剛出版
333	家族に学ぶ家庭療法	鈴木浩二監修	金剛出版
334	非行の臨床	石川義博著	金剛出版
335	臨床精神医学講義	日大精神神経科	星和書店
336	自己愛と境界例	ジェームス・F・マスターソン著 富山幸佑 尾崎新著	星和書店
337	小児精神医学	新井清二郎 長畑正道他著	中山書店
338	老年期の性	大工原秀子	ミネルヴァ書房
339	性ぬきに老後は語れない	大工原秀子	ミネルヴァ書房
340	精神科リハビリテーション	J・K・ウイング B・モリス編 高木隆郎監訳	岩崎学術出版社
341	異常心理学講座⑥	上居健郎 笠原嘉 宮本忠雄 木村敏責任編集	みすず書房
342	中井久夫著作集 1 分裂病	中井久夫	岩崎学術出版社
343	“ 2 治療	“	“
344	“ 3 社会・文化	“	“
345	“ 4 治療と治療関係	“	“
346	“ 5 病者と社会	“	“
347	“ 6 個人とその家族	“	“
348	“ 別巻1 中井久夫共著論文集	山中康裕編	“
349	“ 別巻2 H・NAKAI風景構成法	山口直彦編	“
350	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木富士夫編著	岩崎学術出版社
351	職場と心の健康 ①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 岩崎徹也 小此木啓吾 武田専監修	東海大学出版会
352	“ ②企業と中高年	“	“
353	“ ③企業と家族	“	“
354	“ ④企業と転勤	“	“
355	“ ⑤個人と性格	“	“
356	安永治著作集 1 ファントム空間論	安永治	金剛出版
357	“ 2 ファントム空間論の発展	“	“
358	“ 3 方法論と臨床概念	“	“

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
359	精神科リハビリテーションの実際 1	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
360	精神科リハビリテーションの実際 2	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
361	精神科難治療例 私の治療	融道男編	中外医学社
362	これからの精神保健・精神医療	谷中輝雄編	やどかり出版
363	十亀史郎講演集1	十亀記念事業委員会	伊勢出版
364	地図は現地ではない	中沢正夫	萌文社
365	心理劇とその世界	増野肇	金剛出版
366	サイコドラマのすすめ方	増野肇	金剛出版
367	異常心理学講座 第十巻 文化・社会の病理	土居健郎他	みすず書房
368	気分変調症	S・Wパートン H・Sアキスアル	金剛出版
369	幻覚・妄想の臨床	濱中淑彦 河合逸雄 他編集	医学書院
370	子どもの心の臨床	中沢たえ子 著	岩崎学術出版社
371	シリーズ現代の病4 職場の病	河野友信 編集	医学書院
372	精神保健と看護のための100か条	中沢正夫	萌文社
373	精神保健「家族教室」	全国精神保健相談者会 田中英樹 他	萌文社
374	精神保健マニュアル	吉川武彦	南山堂
375	精神分裂病研究の進歩 1991 Vo2 No1	精神分裂病研究編集委員会	星和書店
376	“ 1992 Vo3 No1	“	“
377	臨床精神医学論集	土居健郎教授退任記念論文集刊行会	
378	集団精神療法の進め方	山口隆 中川賢幸 編	星和書店
379	臨床心理学体系 ①臨床心理学の科学的基礎	河合逸雄 福島章 他編集	金子書房
380	“ ②パーソナリティ	小川捷之 託摩武俊 他編集	“
381	“ ③ライフサイクル	小川捷之 斉藤久美子 他編集	“
382	地域精神保健活動の実際	吉川武彦 編	金剛出版
383	安永浩著作集 症状論と精神療法	安永浩	“
384	精神保健福祉の展開	岡上和雄 編	相川書房
385	臨床心理学大系4 家族と社会	岡堂哲雄、鏑幹八郎 馬場禮子 編集	金子書房
386	“ 5 人格の理解①	安香宏、田中富士夫 福島章 編集	“
387	“ 6 “ ②	村瀬孝雄、大塚義孝 安香宏 編集	“
388	“ 7 心理療法①	小此木啓吾、成瀬悟策 福島章 編集	“
389	“ 8 “ ②	上里一郎、鏑幹八郎 前出重治 編集	“

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
390	臨床心理学大系9 心理療法③	河合準雄、水島忠一 村瀬孝、雄 編集	金子書房
391	“ 10 適応障害の心理臨床	安井健三、小川捷之 安香、宏 編集	“
392	“ 11 精神障害の心理臨床	福島章、村瀬孝 山中康裕 編集	“
393	シリーズ精神科症例集① 精神分裂病I-精神病理-	木村 敏 責任編集	中山書店
394	分裂病の精神病理と治療②	湯浅修一 編	星和書店
395	“ ③	中井久夫	“
396	リバーマン実践的精神科リハビリテーション	ポール・リバーマン 安西信雄・池淵忠美 監訳	創造出版
397	メンタルヘルスシリーズ サラリーマン・アパシー	延島信也 編	同朋舎
398	“ 働く女性のメンタルヘルス	馬場房子 編	“
399	転換期に立つ精神病院	ゆうゆ編集部・氏家憲章	明文社
400	狂気の社会史	ロイ・ポーター著 日羅公和訳	法政大学出版局
401	こころの病いと家族のこころ	滝沢武久	中央法規出版
402	老年性精神疾患	エミール・クレベリン 著 伊速 徹 訳	みすず書房
403	河合準雄著作集 5 昔話の世界	河合 準 雄	岩波書店
404	“ 6 子どもの宇宙	“	“
405	“ 13 生きることと死ぬこと	“	“
406	地域精神保健実践シリーズ② 保健デイケア	全国精神保健相談員会編 田中英樹ほか著	明文社
407	慢性疾患と家族	フロマワルシュ/キャロル・小アンダーソン編 野中猛・白石弘巳 監訳	金剛出版
408	精神科ディケアマニュアル	宮田 勝	“
409	脳障害者の心理療法	小山充道	北海道大学図書刊行会
410	憑作と精神病	高畑直彦、七田博文、内湯一郎	“
411	児童虐待(危機介入編)	斉藤 学	金剛出版
412	これからの地域保健	厚生省健康政策局計画課監修	中央法規出版
413	子どもの虐待防止	児童虐待防止制度研究会編	朱鷺書房
414	老いの心と臨床	竹中星郎	診療新社
415	Alcoholism: Origins and Outcome	R.M.Rose・J.E.Barrett	RAVEN
416	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
417	Mental Health in the Elderly	H.Häfner・G.Moschel N.Sartorius	Springer-Verlag
418	Stress testing Edition 3	F.A.Davis.	M.H.ELLESTAD
419	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRLIGHT
420	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS





〈定期刊行物〉

精神医学	医学書院
日本社会精神医学会	星和書店
アルコール医療研究	“
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャルワーク研究	相川書房
季刊精神療法	金剛出版
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
心理学評論 (Vol32 No1~4, Vol33 No1~4)	心理学評論刊行会
心理臨床	星和書店
日本精神病院協会雑誌	日本精神病院協会
臨床精神医学	国際医書出版
精神障害と社会復帰	やどかり出版
公衆衛生	医学書院
季刊ゆうゆう	萌文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
季刊職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会
JDジャーナル	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会

〈ビデオテープ〉

マイクロカウンセリングⅠ 基本的かかわり技法	前編
“ “ Ⅱ “	後編
老人ボケを防ぐには	
社会人としての言葉使いの基本	
作業療法 生活を広げる治療と援助	
老人と飲酒	
アルコールと循環器	
肝臓とアルコール代謝	
あと一杯が飲めるか	
与越市つくしの里の実践から	
地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介します	
こころの病をかかえて——精神障害者は今	
病院を出て街で働きたい 報道特集 (1987年)	
君は空の青さを知っているか——精神障害者が地域で生きていくために	
今ここにいきる——精神障害者とともに	
災害と心のケアハンドブック	

ひとりぼっちをなくそう ― 精神障害者本人の会

そよ風はどこにでも ～地域精神保健の実際～

第一巻：いつでも どこでも だれにでも

第二巻：くらす はたらく つどう

家族のための分裂病講座

正しい知識は回復への道

ゆっくり治療し、再発を防ごう

知っておきたい薬の知識

あちこたねえ

精神障害者の地域生活支援

#### 〈精神保健啓発用パネル〉

##### I こころの健康づくりシリーズ (7枚)

こころの健康とは

こころの問題はどこへ相談すればいいの？

こころの病気にかかる人はどれくらい？

こころの健康づくり

こころとからだ

生活環境とストレス

ライフサイクルと心の病

##### II 社会復帰シリーズ (7枚)

社会復帰のための4要素

共同作業所とは

ディケアとは

家族会活動

共に生きる社会

社会復帰のための社会資源-1. 制度-

” -2. 施設と活動-

##### III (ライフサイクル) 思春期シリーズ (5枚)

思春期のこころ

思春期のからだ

親ばなれ

子ばなれ

思春期の心の病のサイン

##### IV (ライフサイクル) 老年期シリーズ (10枚)

老年期の心と体の特徴

老年期の心の病 (精神障害)

痴呆とは①

痴呆とは②

仮性痴呆

痴呆の予防

痴呆の介護①

痴呆の介護②

痴呆はどうして起こる

健やかなる老後

---

平成8年度版 こころの健康センター所報

平成9年10月 発行

三重県こころの健康センター  
(精神保健福祉センター)

〒514-11 久居市明神町 2501-1  
三重県久居庁舎1階  
電話 059-255-2151

---